



第147号

公益財団法人 特攻隊戦没者  
慰霊顕彰会

編集人 金子敬志  
発行人 石井光政

印刷所 株式会社 SGネクスト  
ホールディングス

目次

巻頭言	副理事長 岡部俊哉	2
各地慰霊祭等報告		
第72回世田谷山観音寺年次法要	編集長 金子敬志	3
憂国碑「錨地藏尊」御霊祭に参列して	評議員 原 知崇	8
三重県「特攻勇士の像」御霊祭理事長	理事長 岩崎 茂	10
国分第二基地十三塚原特別攻撃隊慰霊祭	評議員 國分雅宏	11
第十回戦歿学徒慰霊祭に参列して	評議員 及川昌彦	13
令和5年回天楠公祭	評議員 宮本雅史	14
会員等投稿		
「郷土の身近なる特攻史 続」	理事 福江広明	15
多田野語録	会員 多田野弘	21
特攻隊員へのインタビュー	会員 中川法宏	26
・陸軍特別攻撃隊 第303振武隊 土田昭二伍長		
・人間機雷 伏龍 鈴木道郎上等飛行兵長		
連載 山ある記24	会員 池田康博	38
顕彰譜(12)		
芸欄 歌俳柳の広場		
短歌・俳句・川柳		
事務局からの報告等		
挿絵提供 空自OB 宇山氏		
		43
		42
		39
		38
		32
		26
		21
		15
		14
		13
		11
		10
		8
		3

## 「巻頭言」

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

副理事長

岡部

俊哉

九月十日(日)、全日本空挺同志会主催の高野山慰霊祭に参列しました。空挺特攻の薫空挺隊、高千穂降下部隊及び義烈空挺隊を含めた挺進部隊戦死者一万二千余の英霊をお祀りした奥之院の「空挺落下傘部隊将兵の墓」前に、約二百三十名の参列者が集まり、厳かに慰霊祭が執り行われました。

高野山の慰霊祭は、昭和三十一年の墓碑の除幕・開眼以来、空挺戦友会主催で執行されてきました。昭和四十三年の空挺戦友会の発展的解消に伴い、全日本空挺同志会(旧軍の空挺戦友と自衛隊の空挺隊員等が会員)に引き継がれたものです。

旧帝国海軍の伝統を引き継いでいる海上自衛隊に対し、陸上自衛隊と旧陸軍との間は断絶といつていいほどの状態にある中で、第一空挺団は旧軍落下傘部隊(旧挺)の伝統を継承し、後に続く落下傘兵として旧軍との密接な関係を誇りとする唯一の陸上自衛隊部隊であります。我々の初級幹部時代には、パレンバン空挺作戦に参加された正に「空の神兵」が御存命で、直接戦闘戦史を拝聴したものでした。更には空挺戦史に関する貴重

な資料が保管・展示され、隊員が追体験できるのも第一空挺団ならではです。義烈空挺隊の指揮官奥山大尉の映像・写真遺書・遺品等に接して育った我々空挺隊員は、義烈空挺隊の将兵の姿は元より、半年間における二回の作戦中止と度重なる出撃延期にもかかわらず一名の脱落者も出すことなく、また気負うことなく笑顔で出撃した奥山隊長(享年二十六歳)の統率こそ、空挺の初級・中堅幹部が追及すべき目標と確信しておりましたし、それは今でも変わりません。

高野山慰霊祭の最大の特徴は、墓所において空挺落下傘部隊戦死者をお祀りするものであり、加えて旧挺出身者更には自衛隊空挺隊員の物故者までもが、合祀されることであります。旧挺御遺族からの分骨を納めて貰いたいという要望に依り、例年慰霊祭において合祀されるようになり、自衛隊空挺出身者も仲間入りしたものです。今年も新しく7名の方が合祀されました。

斯くいう小生も時が来れば分骨合祀していただくべく、既に申請・登録を済ませております。急ぐつもりは毛頭ありませんが、いずれ空挺落下傘部隊の英霊や第一空挺団でお世話になった諸先輩方等と空挺隊員として泉下で相見え、奥山大尉を始めとする皆さんと酒を酌み交わす

ことを想像すると、不謹慎を承知で申しますが、何となく愉しみな気分になります。加えて、現役の空挺隊員、空挺同志会会員等の皆さんが、高野山の地に毎年足を運び、再会に来てくれます。

自衛官の中で唯一、空挺隊員のみが祀って貰える聖地を与えられているからこそ、我々空挺隊員・OBは、「後に續く者」としての矜持を胸に、「祖國日本の彌栄」に貢献すべくしつかり生きて行かねばらぬと思うのであります。これが高野山の慰霊祭なのです。



墓所に建立されている副碑

# 第72回特攻平和観音年次法要

日時 令和5年9月23日(金)  
秋分の日 14時〜15時15分

場所 世田谷山観音寺・特攻観音堂

参列者 138名

## 一 概要

今回の年次法要は、春に新型コロナウイルスが第2類から第5類に移行して行動制限が撤廃されたので例年通りの開催を目指しましたが、再拡大の兆候が見られるため、式典だけ実施し、直会は見送られました。

式の開始に先立ち、244名10団体の方から寄せられたお布施を、岩崎理事長から太田恵淳住職にお渡ししました。

## (1) 式次第

1 梵鐘点打

トランペット

堀田 和夫  
町 ともみ

3 願文・官司神儀(神仏習合)

願文

世田谷山観音寺 住職 太田 恵淳

官司神儀

駒繫神社 官司 澤田 浩治

4 祭文奏上

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂

5 世田谷区長挨拶  
6 献吟  
保坂 展人

一誠流 吟詠  
龍笛  
竹内 一香  
安藤 韻盟

7 奉納献奏及び慰霊献歌  
甲飛喇叭隊 隊長 原 知崇  
「同期の桜」「海ゆかば」 全員合唱  
堀田 和夫  
町 ともみ

8 玉串奉奠  
9 焼香  
10 池前祭  
住職読経  
官司祭祀奏上

(解散)

## (2) 祭文

謹んで在天のご英霊に申し上げます。大東亜戦争が終結してから78年が経ちました。今年も、ここ、世田谷山観音寺の特攻観音堂前で、第72回の特攻平和観音年次法要の季節が巡ってきました。昨年度までの3年間は、新型コロナウイルスの影響で、縮小実施を余儀なくされましたが、今年はこのように、御遺族、ご来賓をはじめ多くの方がお集まり下さいました。

皆様が大東亜戦争に於いて、身を賭して戦って下さったお陰で、日本はその後繁栄と安寧の78年を過ごし、また、アジア、アフリカ等の国々も多くが欧米から独立を勝ち取ることが出来ました。

日本国民と、独立を果たした国々の多くが、皆様に感謝の誠を捧げています。また、世界の中においても、皆様が示された究極の利他の精神に感銘を受けております。

ところが、ここ3年の間に、世界はコロナだけでなく、ロシアによるウクライナへの侵略や、中国の戦狼外交と言われる覇権主義的外交姿勢の強化、また、北朝鮮による弾道弾ミサイルの開発等、不安定化の一步を辿っているように思われます。

これに対応して、防衛関係の法体系を見直し、予算も増額し、抑止力の強化に努めています。相手に侵略する気持ちを持たせない最大の抑止力は、国民一人一人の国と仲間を思う気持ちだと思います。

この精神を、身を以て示されたのが特攻隊で亡くなられた皆様であり、皆様の示されたこの精神こそ、常に国を護り、国を興す底力であると思ひ、感謝申し上げます。同時に、いまこそ、この国を護る気概と他人を思う心を持ち、この国難に敢然と立ち向かわなければと思ひます。

私たちは、これからもご英霊の皆様が残されたこの精神と志を守り、粉骨砕身、ますます努力し、日本の発展と文化の継

承に努める所存です。

どうか在天の英霊、安らかに鎮まりま  
すとともに、私共に一層のお力を賜らん  
ことをお願い願う次第です。

令和5年9月23日

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 岩崎 茂

### (3) 世田谷区長ご挨拶

世田谷区長の保坂展人です。

三年有余に及ぶ新型コロナウイルス感染  
症の影響が続き、四年ぶりに、出席させ  
ていただきました。第七十二回特攻平和  
観音年次法要にあたり、世田谷区長より、  
ご挨拶を申し上げます。

昭和二十六年に睦賢和尚（ぼっけんお  
しょう）が、独力で建立された世田谷山  
観音寺に、命と平和の尊さを祈る日が廻っ  
てまいりました。

戦後から、今年で七十八年が経過し、戦  
争の記憶と平和の大切さをともすれば見  
失いがちになる中、先日、「代沢国民学  
校の疎開生活」のDVDを見る機会があ  
りました。

その中で、長野県の本郷村の浅間温泉  
に集団疎開をされた松本明美さんが、語  
り部として特攻隊員の方との交流を語ら  
れています。

動画の中では、昭和十九年八月から疎  
開していた代沢小学校の松本さんたちの

いる寮に、翌昭和二十年の二月に六人の  
特攻隊員の方が来られたとのこと。少  
し長くなりますが、松本さんのお話を  
紹介させていただきます。

六人は、航空兵ということでしたが、  
訓練から帰ってきてからは、手をつない  
で散歩をしたり、夜になると宿題を見て  
もらったり、男の子は一緒にお風呂に入っ  
たりと仲良くなりました。

兵隊さんに、色紙を書いてもらったり、  
一緒に写真を撮ったりします。

その兵隊さんのお一人とお散歩して、  
郷里の優しいご両親のお話や実家はお米  
を作っている農家などのお話を聞いたあ  
と、「もし、ぼくが生きて帰ることがで  
きたら、ぼくのお嫁さんになって欲しい」  
と言われました。

そのときはびっくりして、何の返事もで  
きなかったとのこと。

いよいよ出発という時に、朝早く、今  
まで見たこともないような立派な軍服を  
着て、サーベルを下げて、「今からいつ  
てまいります」と言ってお出発されました。

子どもたちは、「どこにいくんだろうね」  
と思っただけですが、寮母さんが「あの方  
は特攻隊の兵隊さんだったのよ」と教え  
てくれたそうです。

特攻隊を知らなかったもので、職員室の

先生に聞くと「特攻隊というのは特別な  
優秀な方が訓練を受けて、いざ出撃とな  
ると遺書を書いて敵艦めがけて体当たり  
をして亡くなるんだ」と聞いてものすご  
いショックを受けたそうです。

そして、四月初めに、子どもたちのい  
る寮に、手紙が届きました。

「えんぴつ部隊の諸君お元気でおすごし  
のことでしょう。兵隊さんたちも明日い  
よいよ出撃であります。必ず敵を撃沈さ  
せますよ。みなさんがこの手紙を読んで  
いる頃は、兵隊さんはこの世の人ではあ  
りません。浅間の宿泊中は共に遊び、共  
に学んだこともありましたね。本当にお  
世話になりました。敵をやっつけるまで  
は死すとも死せず必勝を誓います。につ  
こり笑って散っていきます。ではお元気  
で次の世をお願いします。」

このお手紙の中には、茶色くなった桜の  
花びらが入っていたとのこと。

このDVDを見終わって、特攻隊員の  
若者たちの思いを考えると、心が締め付  
けられました。

短い子どもたちとの交流の中で、十  
八歳から二十歳までの若者たちが、次代  
のことを子どもたちに託す言葉が、子ど  
もたちのえんぴつ部隊にあてた手紙の中  
に表れているものと感じます。

(5) 第147号

改めて、戦争の痛ましさと過酷さを痛感しているところです。世界に目を向けますと、ロシアのウクライナへの軍事侵攻も一年半と長期化しており、今なお、激しい戦火の中で、多くの犠牲者が出ています。即時停戦と、和平の実現を願ってやみません。私は戦争の記憶と、平和の礎となった先人の思い、そして歴史の教訓をいかに後世に伝えるのか、日々思いをめぐらせてまいりました。かつての戦争をめぐる体験や事実も、世代を超えて語り継がれることが重要であると信じて疑いません。世田谷区でも、昭和六十年に平和都市宣言を行い、平成二十七年には平和資料館を開館して戦争の悲惨さを伝える努力を続けております。改めて、ぜひ若い方々に平和の大切さを広く伝える場として紹介していただきたいと思います。結びに、戦争の犠牲となられた方々への哀悼と、その後のわが国の復興を成し遂げた多くの先人達への感謝、そして永遠の平和を希求していく決意をお誓いして私の挨拶といたします。

令和五年九月二十三日

世田谷区長 保坂 展人



祭文を奏上する岩崎理事長



お布施の奉納



堀田氏父娘による国家吹奏



ご挨拶をされる保坂世田谷区長

第七十二回特攻平和観音年次法要の御齋行に当り、  
遥かに大前を拝み奉ると共に  
謹んで御遺族関係者各位の御健勝を御祈り申し上げます。

靖國神社 宮司 山口 建史

<div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">0</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">-</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">0</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">0</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span> </div> <p>東京都千代田区飯田橋1-5-7 東專堂ビル2F</p> <p>公益財団法人 特攻隊戦没者慰靈顕彰会</p> <p>理事長 岩 崎 茂 様</p>	
<p>〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館テラス4階</p> <p>一般財団法人 日本遺族会</p> <p>TEL (03) 3261-5521</p>	<p>9 月 21 日 午前 午後 なし</p> <p><small>翌日以降の配達日指定された場合のみ配達時期希望が可能です。</small></p> <p>① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input checked="" type="checkbox"/> 普 送 ⑤ <input type="checkbox"/> 普</p>

第七十二回特攻平和観音年次法要のご齋行にあたり、  
平和の礎となられました尊い御霊に対し、  
謹んで哀悼の意を表します。  
また、心より感謝を申しあげます。  
我が国の今日の平和と繁栄をもたらしたものは何であつたのか、いま改めて思う時、世界に目を向ければ未だに紛争が堪えず、罪のない大切な命が失われ続けています。時代の変化の中で苦しみや悲しみはそれな遺族を出してはならないという固い決意を持たせ、困難を乗り越えてゆく力を後世に残されたのだと、私も戦没者の遺児の一人として新たに感じています。平和の尊さ、命の大切さを後世に語り継いでいかなければなりません。  
皆様方には「平和を語り継ぐ者」として、今後とも末永くお力添えいただければ幸いです。  
結びに、ご参集の皆様方のご健勝、ご多幸を心より祈念いたします。

一般財団法人 日本遺族会  
会長 水 落 敏 崇

この度、第72回特攻平和観音  
年次法要の開催にあたり、皆様方  
のご尽力に敬意を表します。

国家に殉じた英霊が安らかに眠られ  
ますことを、お祈り申し上げます。

小職も常に戦没者に想いを馳せ、  
日々の公務に当たって参ります。

合掌



“ヒゲの隊長” こと  
参議院議員

佐藤 まさひさ

憂国碑「錨地蔵尊」御霊祭に参列して  
評議員 原 知崇

令和五年七月十七日（海の日）に、山形県鶴岡市の湯殿山仙人沢霊場において今年で二六回目となる「憂国碑『錨地蔵尊』御霊祭」に参列して参りましたのでご報告致します。

この御霊祭は回天戦没者をはじめとし大東亜戦争でその命を散らせた御霊の安らかなれを願ひ、錨地蔵尊奉賛会により開催されています。私自身は八年ぶりの参列でしたが、出羽三山の奥の院と云われる湯殿山神社の赤い大鳥居は、時間の経過を感じさせずに聳え立っていました。出羽三山とは羽黒山、月山、湯殿山の三つを指し、それぞれ「現在」「過去」そして湯殿山は「未来」を表し、これらを巡り詣でることは死と再生を意味すると伺いました。特に修験道の霊山、湯殿山神社の御神体については「語るなかれ」「聞くなかれ」とされ、参拝者がそこで見たものを語ることは禁じられている秘所でもあります。

雨の予報ははずが晴れたり、雨雲が足早に通り返り過ぎて行ったりと山の変わりやすい天気の中、御霊祭は錨地蔵尊前ではなく湯殿山神社参籠所内において開催と

告知され、山形回天会から引き継がれた軍艦旗が掲げられる堂内に山形県出身の回天搭乗員など御縁の方々の霊璽やゆかりのものが並べられました。神林千祥奉賛会長から一つ一つ御説明を頂戴しましたが、その中で「故海軍少佐柿崎実英霊位」と書かれた霊璽と、「轟沈 一死以テ萬敵ヲ斃サン 海軍中尉柿崎」と血書されたものを示されました。この柿崎少佐（中尉、戦死後特進）は山形県酒田市出身で兵学校七二期、昭和十八年に卒業。翌十九年からは大津島基地で回天搭乗員としての訓練を受け、十二月二日に伊号第五十六潜水艦に搭載された回天とともに大津島を出撃、アドミラルティ諸島ゼアドラー泊地を目指すも、敵の警戒が極めて厳重のため発進点まで進出出来ず攻撃を断念、帰投。二十年三月二日に伊号第三十六潜水艦で再び大津島を出撃、激戦の硫黄島に向かうも、途中の作戦変更により突入を中止し帰投されました。その後二九日には伊号第四十七潜水艦とともに光基地を出撃したが、翌三十日、種子島東方海上で敵機および敵駆潜艇と交戦、被害甚大のため作戦を中止し、無念の帰投をされました。それまでの回天戦は敵泊地への奇襲、つまり停泊中の艦船への攻撃が目途とされていましたが、

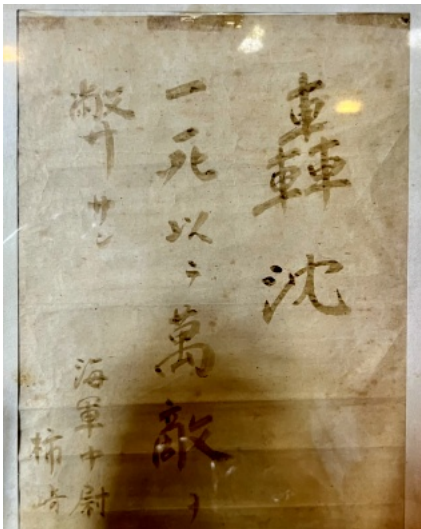
初回以降は敵の警戒に阻まれ母潜水艦の損害が急増し、回天の攻撃も果たせない例が多いことから、この時期から洋上航行中の敵艦攻撃に変更されます。柿崎中尉は四月二十日、光基地より伊号第四十七潜水艦とともに出撃、回天六基を搭載した母潜水艦は沖繩とウルシーを結ぶ中間点を目指しました。五月二日、音源を発見。「魚雷戦、回天戦用意」が下令され、駆逐艦二隻、輸送船二隻を発見した潜水艦長は、柿崎艇を含む二基に発進を命じ、二一分後そして二五分後に大爆発音が聞こえ、柿崎艇は大型駆逐艦轟沈の戦果とされています。柿崎少佐を通して、回天という兵器運用の難しさと、帰投と出撃を繰り返す回天要員に求められる精神力という、極めて厳しい状況を垣間見られると感じます。

御霊祭は十時三十分より参列者十六名、神式で行事が進められました。玉串奉奠の際には神林奉賛会長の般若心経の読経があり、神仏習合の雰囲気がありました。神式の行事に続き、上山特別儀仗隊（木村慎也隊長以下3名）の信号ラッパおよび号笛演奏による海軍式の礼式が行われました。上山特別儀仗隊は平素は「上山（かみのやま）武将隊」として、山形県上山城を中心に地域協力をされて



いるグループですが、隊長が元海上自衛官ということもあり、武将隊の活動の枠を超えて自衛隊イベントや、旧軍関係慰霊祭への協力もしております。

「回天追悼の歌」を合唱し、最後に参列者は屋外の錨地蔵尊の前に移動しました。錨地蔵尊は平成九年に建立され、元々は十月十日に御霊祭を行なっており（現在は七月のこの行事に移行）、十月十日というのは子が母の胎内にある「十月十日」に由来し、挺身散華された若き戦没諸霊が湯殿山で清められ、再び生まれかわることを暗示しているという説明を受けました。海底で錨を抱き、回天搭乗員と思しき装束を纏った地蔵尊は、目を瞑り母の胎内で世に出る時を待つ姿の重ね合わせであろうかと思いました。陸軍で言えば「消灯」にあたる海軍のラッパ譜「巡検」が献奏される中、参列者一同で順番に太平洋と日本海の水を地蔵にかけ終わると、先ほどまで青空も見えていたのが再び雨となり霧も立ち込めて来ました。それが合図のように散会となり、私も下山しました。御霊祭は、毎年海の日に開催されます。



柿崎中尉の血書



湯殿山神社の赤い大鳥居



錨地蔵尊への水かけ



上山特別儀仗隊

三重県「特攻勇士の像」御霊祭  
理事長 岩崎 茂

8月9日、晴れ渡る青空の下、三重県護国神社の境内に建立されている「ああ特攻勇士之像」前での特攻隊慰霊祭が執り行われました。

この像は2年前の令和3年に奉納されましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のため、奉納式に顕彰会からの参加は叶わなかったため、初めての参列となります。

三重県英霊にこたえる会の中森文博会長や三重県隊友会の三石浩夫会長のご努力により、炎天下にも拘らず、衆議院議員内閣府大臣政務官鈴木英敬（すずき えいけい）氏を始めとして、多くの方々のご参列を頂き、厳粛にかつ濟々と行われました。

慰霊祭では、先ず護国神社の官司による神事が執り行われ、終了後に中森会長からのご挨拶、そして、鈴木内閣府政務官からお言葉を頂いたのち、私も「特攻隊戦没者慰霊顕彰会（以降「特攻隊慰霊顕彰会」という）」を代表して挨拶をさせて頂きました。

ここ三年間は、COVID-19のため

三重県での特攻隊の慰霊祭のみならず、全国各地での慰霊行事が軒並みに中止や規模縮小を余儀なくされましたが、今年からCOVID-19が第5類に指定されたこともあり、また再び通常どおりの慰霊祭が行われる様になりつつあります。少し安堵しているところであります。

しかし、今年の8月号の巻頭言でも述べましたとおり、我が「特攻隊戦没者慰霊顕彰会」の会員数の減少と、各慰霊祭等への参加される方々の減少に有効な手立てがない状況です。この様な状況は、他の慰霊団体もほぼ同じような状況にあるとお聞きしております。この様な中でCOVID-19でしたので、今後、各地での慰霊祭等への参加がCOVID-19以前に戻るのか危惧しているところで

す。今回の三重県護国神社での慰霊祭は、慰霊祭に合わせて、「英霊にこたえる会総会」及び「講演会」が企画されておりました。「講演会」は神社内で、日本経済大学の久野潤准教授による「戦没者慰霊顕彰について」との論題で約一時間ほど行われました。久野先生は、「帝国海軍の航跡」等の著者であり、今回の慰霊祭にもご参加頂きましたし、他の慰霊祭等にも参加されています。御英霊の

慰霊顕彰に大きな興味をお持ちで、かつ実践されておられる先生です。この様な慰霊祭にあわせた講演会の企画は、大変素晴らしいことであり、この企画により一人でも多くの方々に「慰霊顕彰」にご興味を持っていただき、私達の活動にご理解・賛同いただくことにより、私達の仲間を増やすことが出来るのではと感じました。各地でいろいろなご努力をされていることを再認識した次第です。

漸く、猛暑の夏がおわり、季節を感じる事が出来る時期になりました。御英霊に対しまして改めて我々に対しますご加護をお願い申し上げますとともに、心安らかならんことをお祈り申し上げます。



三重県特攻勇士之像

第25回国分第二基地十三塚原特別攻撃隊  
慰霊祭に参列して

評議員 國分 雅宏

台風7号が紀伊半島に上陸した8月15日(火)、36度を超える猛暑の中、例年の70名を超えた多くの参加者が鹿児島空港前にある「バレルバレープラハ&GEN」内の特攻慰霊碑前に集まった。

昭和19年鹿児島県霧島市溝辺の十三塚原に建設された海軍航空隊国分第二基地の跡地にある「バレルバレープラハ&G



慰霊祭開会右から二人目が祭主

EN」で河内源一郎商店の山元正博会長が、複数の防空壕跡を発見し、平成11年に慰霊碑を建立、同年から毎年慰霊祭を開催している。平成14年には、国分第二基地を飛び立った217名の名を刻んだ慰霊碑を建立し、平成19年に壕も復元した。令和2年8月15日には特攻隊員の遺影や遺族の手記を展示する特攻記念館をオープンした。

霧島高原麦酒重森氏の司会進行による慰霊祭は、11時に開始となり、国分駐屯地音楽隊作成のCD音源の前奏に続く国画家斉唱、11時5分から、加治木島津家第13代当主であり、精矛(くわしほこ)神社宮司の島津義秀氏が祭主を務めた神事が厳粛に執り行われた。11時20分からは、天台宗大雄山南泉寺住職 宮下亮善氏が準備した鐘の音の中、英霊に1分間の黙とうを捧げる「鎮魂の鐘」が鳴り響いた。続いて、加治木工業高等学校1学年の下鶴翔人(はると)君により伊藤英次中尉の遺書が奉読された。

11時30分には、薩摩の秘剣 葉丸流 野太刀 自顕流が司会の重森氏他2名により演舞・奉納された。11時45分から参列者全員による献花、12時から「河内源一郎商店グループ」代表 山元正博氏による主催者挨拶、3名の来賓代表挨拶に



遺族代表、中島富士子様挨拶

続いて遺族代表として、福岡から参列の中島富士子様と滋賀から参列の有賀(あるか)裕二様のお二方から挨拶があり、12時40分に閉会となった。

慰霊祭後は、特攻記念館の見学及び直会となった。本慰霊祭では霧島市等周辺自治体、陸自国分駐屯地12普連、ご遺族等に加え、若年層の参加を追求しており、「河内源一郎商店」のグループ会社を挙げて多くの従業員が慰霊祭の運営に尽力されていることに感銘を受けた。



記念館の正面入り口



記念館裏に再現された掩体壕



特攻隊慰霊碑の奥側には、特攻基地第二国分基地の外観図が設置されていた



バレルバレエプラハ&GENの外観

第十回戦歿学徒慰霊祭に参列して  
評議員 及川 昌彦

令和五年九月三日(日)十三時より広島護国神社にて第十回戦歿学徒慰霊祭が執り行われました。この慰霊祭は海軍第十四期飛行専修予備学生だった慶応義塾出身の柳井和臣氏と出会った戦後生まれの有志によって始まった慰霊祭です。

今年第十回目の筋目となることもあり我が特攻顕彰会の宮本雅史評議員による記念講演会も開催されました。

慰霊祭は広島護国神社松下禰宜による祝詞奏上後に久保慶子戦歿学徒慰霊祭実行委員長による慰霊の詔奏上がされました。巫女舞「みたま慰めの舞」、海ゆかば斉唱、玉串奉奠は久保慶子実行委員長、宮本評議員に続いて来賓として参列いただきました第十三旅団長・徳永勝彦陸将補、海上自衛隊呉地方総監代理幕僚長・貴田幸典海将補、海上自衛隊第一術科学学校長・梶元大介海将補、海上自衛隊幹部候補生学校長・近藤奈津枝海将補、自衛隊広島地方協力本部長・柿内淳志一等海佐、航空自衛隊・屋内健三等空佐、元呉市長・小笠原臣也戦艦大和会会長、谷恵介元呉市議会議員、広島隊友会・湯前剛副会長、呉隊友会・豊澤幸徳会長、林



久保慶子実行委員長による慰霊の詔奏上

紀孝靖国神社権禰宜、佐々木孝宣呉水交會会長、岡山県郷友会藤原一雅会長、遠方から参列の筑波海軍航空隊友の会・松井方子会長、海原会から平野洋一郎事務局長、行方滋子参与、作家である片山利子様にしていただきました。松下禰宜による挨拶があり慰霊祭は厳粛に終了しました。

慰霊祭終了後、本殿前にて記念撮影があり、講演会場に移動して宮本雅史評議員による講演が行われました。演題は

「戦後78年、日本人が忘れたもの」でした。宮本講師による迫真の講演で質疑応答も活発で有意義な内容でした。また十周年を記念したパネル展示も開催し二柱のご祭神(橋本百人海軍中尉・多田良政行陸軍大尉)のご紹介をしております。



参列者全員による記念撮影

令和5年回天楠公祭  
評議員 宮本 雅史

令和五年九月十日、岐阜県下呂市の飛騨信貴山山王坊境内の回天楠公社で、「楠公回天祭」が行われた。

祭神は、楠木正成を主祭神に、大東亜戦争末期、人間魚雷回天を創案した黒木博司大尉（当時二十二歳、没後少佐に）と回天で出撃、散華した搭乗員で、昭和三十九年一月、黒木少佐と交流の深かった皇国史観の主唱者である平泉澄氏が自ら建設地を交渉するなどして創建。楠公精神を精神的支柱として戦い抜いた黒木少佐と回天搭乗員を合祀し、少佐らを慰霊する「楠公回天祭」は今年で六十回を数えた。

慰霊祭には、黒木少佐の甥の黒木尚之氏や平泉氏の孫で、白山神社宮司の平泉隆房・金沢工業大教授ら五十三人が参列。午前十時に始まった神事は、修祓、祭詞奏上、玉串奉奠等と進み、最後に黒木少佐ら特攻隊員に思いを寄せる献詠が奉納され、力強い声が山々に響き渡った。

◇ 《人間魚雷回天を 生みしつはもの黒木少佐よ 愛知・慕楠號》  
《畏くもなほはしくむは 楠の香高きのみやしる 三重・三輪尚信》

《還暦や益田回天楠公祭 皇国護持の決意新たに 岐阜・松橋慎吾》  
《敷島の國の護りの安かれと 兵庫の浦の昔偲びつ 岐阜・横久保》  
《一杯の水にて体清むてふ 偲びを拭く 岐阜・野原》

◇ 《台湾の有事近しと聞きし時 少佐の憂ひ胸迫り来る 岐阜・橋本秀雄》  
《戦争は忘れた時に起こるなり 皇國護持を誓ふ祭り 岐阜・後藤》  
《道踏まむおはします 君継ぎ来るるの影を慕ひて 岐阜・横山泰》  
《清々し下呂の山なみまごころを 伝へて今日も國を守る 岐阜・渡邊》

◇ 慰霊祭への参列者の中には、今年初めてという沖縄県や三重県の二十歳代の若者の姿もあり、徐々に広まりつつあるようだ。ただ、黒木少佐の生誕百年の昨年、アニメ『僕たちの回天』を（脚本・アニメ化、井上勝仁、監修、橋本秀雄）を制作した「海軍少佐黒木博司生誕百年記念事業委員会」は約一時間のDVDを約二十分に編集し、YouTubeに流すなどして、さらに広く周知したとしている。このアニメは、自殺願望の強い生徒を抱える若い教師が、黒木少佐の生き方に触れ、心を寄せて行くなかで、どう生きていくべきかを問い続ける姿を描いており、

だれもが考えさせられる内容だ。監修の橋本氏は、「内外ともに困難な時代に私たちはどう生きていくべきか、立ち止まって考える機会を持つて頂きたい」と話している。

慰霊祭の後、日本安全保障戦略研究所上席研究員で、元海将・潜水艦隊司令官の矢野一樹氏による『日本の新戦略と潜水艦』と題した講演会が開かれた。矢野氏は、「通常潜水艦と原子力潜水艦の相違」に始まり、「日本周辺の核戦略環境」や「日本の戦略環境」「中国の国家戦略」「米国の対中軍事戦略」「安保戦略の課題」「国家防衛戦略」など多岐にわたり議論を展開した。



神事の様子

「郷土の身近なる特攻史・続」

理事 福江 広明

1 「我が郷里唯一の航空特攻の英霊」

前大戦終了まで、私の郷里である長崎県大村市に配置されていた大村海軍航空隊において、航空特攻の部隊（神剣隊）が編成され、鹿屋基地（鹿児島県）を経由して出撃した史実について、調査研究した結果を昨年会報（第140号）に掲載した。

その調査を行う中で、大村市出身で唯一の航空特攻の英霊とられた方の存在を知ることになった。晦日進（みそかすむ）少尉（戦死後、武官進級命により二階級進級（大尉））である。



長崎県大村市を示す地図



本家に飾られている遺影

以下は、鹿屋航空基地史料館内で掲示されている晦日進少尉の経歴概要である。

- ・ 作戦方面…菊水4号作戦
- ・ 出撃部隊名…第5七生隊
- ・ 階級…少尉
- ・ 戦死日…昭和20年4月29日
- ・ 搭乗機…爆戦（零戦21型 250kg爆装）

- ・ 生年月日…大正12年
  - ・ 年齢…22歳
  - ・ 出身期別…予備学13期
  - ・ 出撃基地…鹿屋
  - ・ 所属部隊…第721海軍航空隊附
  - ・ 戦死場所…沖縄北端東方
- 次項以降、晦日家本家に残る貴重な記録、ご親族からの聞き取り等を基に、晦日少尉のおいたちから戦死日までを調査した結果をとりまとめた。

2 「晦日少尉のおいたち」

晦日進氏は、晦日房雄・キク夫妻の長男として、大正12年3月26日に長崎県大村市で出生。ご両親は、その後も進氏をはじめ3男1女の子宝に恵まれる。

進氏は、幼少期から旧制中学校に至るまで、成績優秀で学級委員を務め、剣道にあつては、旧制中学で最上の2段を取得する腕前でもあった。弟御によると『怖くも優しい兄貴』であったようだ。

また、長兄である進氏による厳しい鍛錬により、二人の弟御も剣道2段の有段者であった。



旧制中学時代

その後、大工である父の跡継ぎとなることを考えてか、現在の名古屋工業大学の前身である名古屋高等工業学校（現在の名古屋昭和区御器所町に所在）に進学。本家の墓石に「昭和18年9月23日名古屋高等工業学校 建築課卒業と同時に」

海軍予備学生として飛行隊に入隊」と刻まれていることを手掛かりに、同大学・学務課に問い合わせたところ、「卒業證書授與原簿」が存在することがわかった。そこで、ご親族からの委任を受け、進氏の記載頁の写しを入手。これにより、建築の学位を取得され、昭和18年9月23日に同学校を卒業（第5395號）されていることをご親族にお知らせすることができた。

なお、学務課からは、昭和18年度卒業生の学籍簿等は戦災で焼失しているほか、進氏が通った当時の学校施設の写真等も見当たらないとの連絡を併せて受けた。



【卒業證書（番号第5395號）】  
3 「軍歴」にみる海軍航空隊の勤務

晦日家のご親族が厚生労働省社会・援護局に依頼（平成29年3月）して回答を得られた旧海軍の人事記録（奉職履歴）

は、次の5項目のみが丸数字の順で記載されている。

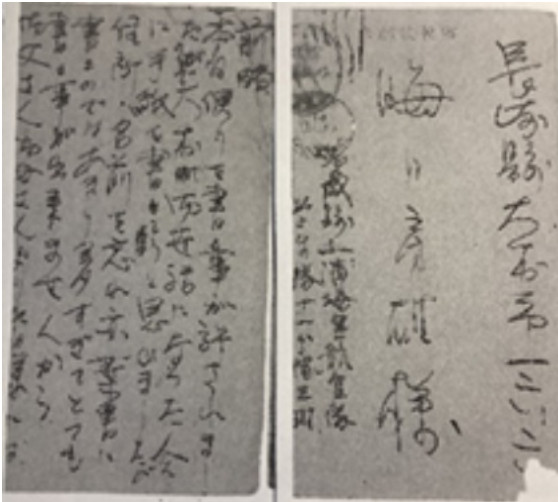
- ① 「昭和18年9月13日…土浦海軍航空隊予備学生トシテ入隊」
- ② 「昭和19年4月1日…任海軍少尉 同日充員招集ヲ命ス」
- ③ 「昭和20年3月1日…補元山海軍航空隊附」
- ④ 「昭和20年4月29日…任海軍大尉（昭和16年勅令第1060号海軍武官進級命ニ依リ二階級進級）」
- ⑤ 「昭和20年4月29日…戦死（神風特攻）」（\*この項目だけは年月日を含め朱書き）

この奉職履歴からまずわかることは、飛行予備学生として昭和18年9月に土浦海軍航空隊に入隊後、1年半の間、同航空隊での配置勤務だったこと。その間、少尉に任官している。入隊日が9月13日とあるが、先述の名古屋高等工業学校の卒業は卒業證書授與原簿によると、9月23日となっている。

この点について、他の第13期予備学生の自伝及びご親族からの聞き取りを照らし合わせると、晦日少尉は名古屋高等工業学校入校中に、徴兵検査を受け甲種に合格。民間会社に就職が決まった中、繰り上げ卒業となったが、兵役優先のため

海軍入隊日が学校の卒業日に先んじたと推察される。

入隊直後に、父・房雄氏へ宛てた9月30日付の葉書が本家に残されている。差出元は「土浦海軍航空隊学生隊11分隊3班」とあり、『前略 本日より書く事が許されましたので、大村で御世話になった人々に手紙を書こうと思いましたが住所・名前を忘れ亦葉書に書くのではあまり多すぎても書く事が出来ませんか、御父さん御母さんより皆様へは：（以下判読できず）』と記されている。



土浦航空隊時代の葉書

入隊前に母・キク氏に宛てた葉書は楷書体での丁寧な書かれているものと比べ



ると、草書体で所々に文字の直し箇所があり、慌てて書き下した感が伝わってくる。先述の予備学同期生の自伝の中にも、入隊生活について『自由だった学生生活に比較して、天国と地獄、娑婆と牢獄という環境の変化に度肝を抜かれた』『海兵で学んできた人達に少しでも近づけるように、まさに火の出るような教育』と記述があり、厳しい飛行教育・軍隊生活の状況が窺える。

その後における土浦海軍航空隊での勤務・生活を知る関連資料はないが、同航空隊は飛行予科練習生等の教育を担当する部隊であったことから、自らの飛行教育訓練が終了し少尉任官後は練習生の教官を務めていたのではないだろうか。

③の人事発令から七生隊の一員として出撃するまでの約1か月の間についても、晦日少尉本人に関する1次資料は存在しない。そのため、当会が平成27年12月21日付で発行している「海軍特別攻撃隊第5七生隊 森丘哲四郎 手記」を活用して、晦日少尉の行動等を推察した。

同手記の活用理由としては、森丘少尉が第14期飛行学生出身で最終的に特攻出撃において晦日少尉の列機であったこと、元山基地に昭和19年10月から勤務していたことによる。

なお、列機とは、「2機以上の航空機が適度な間隔をとって隊形を組み飛行する際に、その編隊に属する航空機」という意味である。

晦日少尉が元山海軍航空隊付となった昭和20年3月1日の森丘少尉による手記には、「新任の13期少尉が續々と着任しあり」とある。このうちの一人が晦日少尉であったとも考えられる。

また手記には、特別攻撃隊・七生隊が4月3日に編成されたことが記されていることから、晦日少尉はこの時点で特攻隊員として出撃することが決まっていたと思われる。

④及び⑤にかかる4月29日の晦日少尉を取り巻く戦況等については、次の項で詳しく述べることにする。  
なお、晦日家墓石の裏面には、戦死に関



晦日家本家の墓石の裏面

わる記述に加え、「勲5等功3級 海軍大尉 晦日進 聯合艦隊司令長官布告第109號」と記されている。



勲5等雙光旭日章



晦日進氏への賞状

4 「沖縄方面において散華された4月29日の戦況等」

厚生労働省社会・援護局から回答された人事記録には、先述の「奉職履歴」のほか、「戦没状況について」の項で次の文が記述されている。「元山海軍航空隊附として朝鮮・威鏡南道元山府において勤務中のところ、昭和20年4月29日、神風特別攻撃隊第五七生隊として出撃。「敵艦上戦闘機見ユ」の無電の後、消息不明となり、同日午後4時23分頃、沖縄本島東方約65哩付近において戦死されております。」

この項では、晦日少尉の戦死日である4月29日の沖縄方面における戦闘状況（菊水作戦）及び第五七生隊に関する詳しい情報を入力することを目的に、防衛研究所が所蔵する戦史叢書第017巻「沖縄方面海軍作戦」及び大東亜（太平洋）戦争戦史叢書第17冊付録の内容を抜粋、要約する等して記述する。

(1) 「菊水作戦」の概要

「菊水作戦」は、沖縄来攻の米軍に対して我が国が航空兵力をもって特攻攻撃を加えた作戦で、昭和20年4月6日の1号から6月22日の10号作戦にわたって遂行された。

同作戦期間中、米軍の沖縄攻略を阻

止するため、陸海軍戦闘機による制空及び掩護を行いつつ、1,100機を超える航空特攻を実施している。戦史叢書第17冊付録の附表第2「沖縄方面神風特別攻撃隊一覧表」のうち、「米海軍作戦年誌等による米側の損害」の項目をみると、菊水1号から3号において米軍の戦艦、空母、駆逐艦等に対して沈没、大破、損傷等の相当大きな戦果をあげていることが記されている。

しかし、4月下旬以降は、我が航空戦力の損耗も激しく、大規模な昼間攻撃を実施することは困難となった。晦日少尉が関わった菊水4号作戦は、天候不順の中、戦機を窺いながら、沖縄周辺の米軍艦船攻撃となった。3号作戦までと比べると出撃機数がかなり少ない中、戦果を挙げた作戦であった。

(2) 4月29日の特攻隊による作戦概況

（戦況の詳細説明のため、「戦史叢書第017巻」456頁の上段17行目）同頁下段10行目をママ記載、ただし実線部分は筆者が加筆したもの）

「4月29日（晴れ）29日は黎明ころからB・29来襲の予報で待機中、0700〜0930の間、南九州に約100

機が来襲し、零戦、紫電等約70機が邀撃した。午前の彩雲は沖縄東方70哩に空母8隻を含む2群の米機動部隊を発見し直ちに攻撃を決意したが、零戦がB・29邀撃で少なくなっていたので、陸軍の戦闘機12機の協力を得て、戦闘機13機、爆戦33機（第4筑波隊×6機、第5七生隊×6機、第5昭和隊×9機、第9建武隊×12機）で特攻攻撃を加えた。夜間の沖縄周辺艦船攻撃は、銀河4機、重爆2機及び天山5機が発進、更には、夜戦15機は4次に分かれて泊地と飛行場の銃爆撃を行った。夜間哨戒は1式陸攻10機で列島線東方海面に出たが敵情を得なかった。

台湾方面からは、早朝、彩雲による偵察と陸攻2機による黎明雷撃を行い、夜は天山3機、陸攻1機、月光1機がそれぞれ艦船、飛行場に攻撃を加えた。「当会が発行している「特別攻撃隊全史」(67〜69頁)でも、より詳細な内容を記述しているので参考にしていただきたい。

(3) 4月29日の第五七生隊に関する細

部情報

データ調査にあたって利用した戦史叢書第17冊付録の附表第2「沖縄方面神風特別攻撃隊一覧表」から、今回の第五七生隊関連のデータを抜粋したの

が次の内容である。

- ・年月日…4月29日
  - ・特攻隊名…第57小隊
  - ・機種機数…爆戦×6
  - ・発進基地及び発進時刻…鹿屋1418
  - ・攻撃地点…沖繩島北端の120度60渚及び90度70渚
  - ・攻撃目標…空母を含む部隊
  - ・指揮官…少尉 晦日進
  - ・特攻未帰還機数…4
  - ・布告番号…109
  - ・米海軍作戦年誌当による米側の損害…  
 駆逐艦×2、敷設駆逐艦×2
- このデータからは、晦日少尉が搭乗した機が指揮官機であったことが明らかになった。また、鹿屋基地発進から約2時間かけて攻撃目標に到達、米艦上戦闘機の邀撃及び米艦船による対空砲撃を受けながら、他の3個特攻部隊と共に駆逐艦2隻を大破させる等の戦果を挙げたことを知ることができた。

5 「晦日少尉の遺書」

今年1月、晦日家本家を取材のため訪問した際に、写真に収められてはいたが、直筆の遺書を拝見することができた。以下は、その全文である。実線及び波線の部分については後述する。

『拝啓 春暖の候父上、母上、博、武、エイ子、御元氣のことと存じます。私も

お蔭様にて元氣旺盛待機して居ります。

上空から家にも御近所にも御別れ致し、又父上とは山川さんの御はからいにて盃をかわすことが出来、心に何も思ひ残すことはありません。死ぬといふことより、如何にすれば敵空母を轟沈出来るかといふ事に心をいためています。私の列機の宮崎少尉、田中少尉、木村少尉も皆平然として明日は必死必中の攻撃をやらうとする者だとは全然見えません。トランプに打興じたり、本に読みふけったりしています。これでこそ神州日本は絶対に勝つことが出来るのだと思ひます。二十有余年長い間御両親には色々とお世話になり、立派な身体に育て戴き、大君の為に皇恩の万分の一でも報いる事の出来る幸を得まして、唯々御礼の申様も御座居ません。ご両親様、私の戦果を見て下さい。そうしてもし戦果をお知り下さいましたら何卒ほめて下さい。絶対に涙など流さないで下さい。私は必ず家に帰って参ります。姿こそ変れ私はいつまでも生きています。では近所の皆々様にくれぐれもよろしく。ご両親様初め、博、武、エイ子の御健康健闘を心よりお祈り致します。神風特別攻撃隊第五七生隊 少尉 晦日進 大正十二年生 長崎県大村市出身

晦日少尉の遺書は、昭和26年に発行さ



直筆の遺書

れた猪口力平・中島正共著『神風特別攻撃隊』（日本出版共同株式会社）に掲載されている。同著の「第6部 特別攻撃隊を顧みて」「第2章 特攻隊員はかく懐う」「第1節 特攻隊員の遺書」の中にある最初の一編（317頁〜318頁）である。

表装の写真は、晦日家本家で保管されていた初版の一冊。実は、この本は、元特攻隊員の川野喜一氏が亡き戦友を慰めるために平成5年9月に本家を尋ねられた時に持参されたものである。

同氏と晦日少尉の関係は不明であるが、先述の本に晦日少尉の遺書及び出身地が



当会に寄贈された本の表装

記載されていたことを頼りに慰霊訪問されたのではないだろうか。なお、当該本は今回の取材をきっかけに当会に寄贈していただいた。

晦日少尉の遺書が、どのようにして出版社に届けられ活字にされたかについては不明だが、数編ある遺書の筆頭に掲載されていることからすると、著者及び編集者等が晦日少尉の心境に感銘を受けたゆえではないか。

さて、遺書に記した実線部分について、ご親族からの聞き取りを付言する。晦日少尉は特攻出撃の直前に鹿屋基地から飛行機で帰省し、父・房雄氏と別杯は交わしたとのこと。この際、母・キク氏は防空壕造りにかかる作業のためか不在で会えずじまいであったらしい。

次に私が個人的に強い関心を持ったのは、遺書中の波線部分。晦日少尉と同一編隊であったはずの宮崎、田中、木村各

少尉の名前が第5七生隊の戦死者名にも見当たらない。

さらには、ご親族の聞き取りからも、晦日少尉は出撃したものの、搭乗機の故障等で鹿屋基地に帰投し再出撃したらしいとの話もある。これら2点から、七生隊のすべての編隊（第1〜第7）の戦死者名を「特別攻撃隊全史」で調べたところ、先の3名と同姓の少尉の名が、第2七生隊（昭和20年4月12日出撃）の戦死者名に載っていた。

晦日少尉の遺書にある列機の3名は、宮崎信夫少尉（九州帝大14期）、田中三少尉（日本大学14期）、木村司郎少尉（早稲田大14期）の可能性が高い。しかも第2七生隊は海兵出身者1名のほかは、全員が予備学生出身（13期及び14期）である。ただ、この事だけで晦日少尉が当初第2七生隊の搭乗員として出撃したが、機体の故障等により帰投、又は帰還し、後に第5七生隊として再出撃したとは断言できない。しかし仮に事実であったならば、遺書は4月11日に書かれたことになり、その後再出撃までの半月以上の日々においてご本人はいかなる胸中であったのだろうか。

なお、先述の森丘少尉は、4月6日に第1七生隊の列機として元山基地から鹿屋基地経由で沖縄方面に向かい、エンジ

ン不調で奄美大島に不時着、帰還している。その後、晦日少尉が指揮する第5七生隊の列機として再出撃、散華されている。

## 6 「調査を終えて思うこと」

今回は、我が郷里唯一の航空特攻戦没者である晦日進少尉について、出生から出撃までの22年間を対象に慰霊顕彰にかかる調査を行った。半年にわたる調査活動にあたって、同郷の縁から、ご親族の協力を得られたことに何より感謝したい。

特に、名古屋高等工業学校での卒業證書授與原簿（学位記簿）に記名ありとの事実にとどり着けたことは、ご本人に対する慰霊となる成果であった。晦日少尉が存命であれば満100歳を迎えられた今年、記名された当該頁の写しにはなるが、きつと喜んでいただけははずである。

また、確証を得るには至らず、わずかな手がかりに基づく推察ではあるが、海軍入隊中における晦日少尉の勤務歴や出撃前の境地について、あくまでも個人的な思いを巡らした結果が次の3点である。それぞれは、すでに本文中で記述した内容を要約したものである。

(1) 元山海軍航空隊に着任した以降、特別攻撃のための急速練成を実施していたことは森丘少尉の手記から明らかである。

その一方、当該航空隊が大村海軍航空隊の分隊であったことから、土浦海軍航空隊で教官を務めていたとすれば、当時米軍による日本本土への航空攻撃が激しくなる中、九州方面に來襲する米軍機に対して制空、邀撃を行う機会もあったのではないか。

(2) 遺書に記された列機の搭乗員3名の姓階級が、第2七生隊の戦没者のうちの3名と一致することから、晦日少尉は彼らと共に4月12日に特攻の初陣として出撃した後、機体の故障等により鹿屋基地へ帰投、もしくは出撃経路において不時着したのではないか。

(3) 前項の事象から4月29日の再出撃までの間に、予備学生から成る編隊の出撃(第3及び第4七生隊(4月16日))があったことを考えると、先述の森丘少尉と同様、奄美諸島付近における不時着後に鹿屋基地に帰還した可能性があるのではないか。

仮に4月12日に再出撃し、その後何らかの原因で鹿屋基地へ帰還した以降、4月29日の再出撃まで、晦日少尉はどこでどのように特攻隊員として待機していたのか。その18日間、無我の境地に身を置くことを求めつつも、さぞ現実に苦悶する日々であったであろう。晦日少尉に関してはもちろんのこと、森丘少尉の手記に

おいても、奄美大島に不時着した以降、晦日少尉の列機として再出撃するまでのメモ等は全くない。

4月29日の出撃前に再度遺書をしたためることはなかったであろうか。遺書の改め書き自体が認められなかったのだろうか。4月11日に書かれた遺書だとしたら、戦後、元隊員が出版した図書に掲載されなかったのか等、まだまだ解明したいことは数多い。

来年は、特攻開始の年から起算して80年を迎える。今回の調査を終えるにあたり、特攻のみならず戦史に関する詳細な調査研究の実行は、いっそう困難になることをあらためて痛感した。

その一方で、元特攻隊員及び特攻戦没者の親族からの聞き取り及び手紙等の保管記録が存在していれば、いまだに「もしや」と思われる気づきが得られることも実感できた。

私自身、全国各地で開催される特攻隊の慰霊祭等に参列する機会がある。今後とも、特攻に関わった部隊全体の慰霊はもとより、特攻戦没者一人ひとりの慰霊頭彰をあらためて行うきっかけに出会う場でもあるとの意識を強く持つて慰霊祭等に臨むとともに、国難にあたり身命を賭された特攻隊員の存在とその意義を、世代を超えて伝えていきたい。

多田野語録  
積善の家には必ず余慶あり  
会員 多田野 弘

表題は、善行を積み重ねた家には、必ず子孫にまで及ぶ幸福が齎されるといふ。これまで私には、善行を意識した記憶はないが、人生は幸せに満ちている。これはおそらく、両親を始め先祖の善行が、つくってくれたに違いない。いずれにしても、今の私があるのは、両親に培われた、精神的な背景が影響している。それは、自主自律・独立自尊・孤独、だといえる。

それらは幼少の頃から既に始まっていた。私は北海道で生まれて5歳まで過ごした後、父の故郷さぬき高松に帰り住みついた。すぐ幼稚園に通わされたが、問題が起きた。同じ園児たちと話が合わなかったのである。彼等の讃岐弁が十分理解できず、私の言葉が分かってもらえなかったことから、自然に独りで過ごすようになった。この時から孤独が始まったといえるが、寂しいとは思わなかった。小1年生になった時も、幼稚園の時と同様に、級友達の談笑の中にすぐ入っていけなかった。今でもそうだが、元来内気だったようだ。1学年の終わりに、渡された通信簿を両親に見せた。品行方正・学力優等とあり、席次1番と記されてい

た。まさかと思った。家で教科書を開いたことがないし、親に「勉強しろ」と言われたこともなかった。続く5年間も首席を通した。これはきつと、両親を始め先祖の伶俐な血筋が、私にも流れていたからだと思つた。私が親になつた時にも、子供に「勉強せよ」を禁句とし、自主自律を望んだ。

また、小学校在学中、ずっと級長を命じられたことが、私をさらに孤独にさせた。皆と同じであつてはならない、違つていなければならぬと思つた。この独立自尊の精神は、私の決断力を高めた。早とちりして失敗もあつたが、後悔はしなかつた。

小学校を終える頃、父から大阪の職工学校へ行けと言われた。私は職工という名前が気になつて返事を渋つたが、競争率が8倍の難関だと聞いて、挑戦する気になつた。難なく入学し、親戚の間を借りて下宿生活を始めた。親の膝下を離れて自由な身になり、自主自律を育む道場になつていた。孤独が産んだ成果であり、かわいい子には旅をさせよである。13歳の子供を見知らぬ土地に送り出した父の深謀遠慮と英断を今でも有り難く思つている。

5年間の学業を終えると、2年後に徴兵検査があり、陸軍は2年、海軍は3年

の兵役の義務があつた。丁度、海軍に1年間の志願制度が新設され、兵役義務に準ずるといふ。普通3年の兵役義務が1年で済むという甘言に魅かれて、徴兵検査1年前に志願し、その第1期生となつた。その頃世間では「人の嫌がる軍隊へ志願する馬鹿がいる」と囁かれていた。海軍は殴つて教える所だと聞いていたが、入隊してみると、その教育訓練の凄さは想定外だつた。普通3年かかるのを1年で済ますのだから当然だといふのは錯誤だつた。1年後の私は、自分とは思えぬほど逢しく成長しており、いかなる困難にも耐え得る自信を持つことができていた。同時に、自分の選んだ独立自尊の考えを誇りに思つた。

孤独が、自主自律を生み、独立自尊を育んだのは間違いないが、戦後の生き方を決定づけた魂についても述べねばならない。それは、ニューギニアの東側の島ラバウル基地の出来事である。連日、100機に余る戦爆連合の来襲があり、壮烈な邀撃戦を戦つたが、その都度、私たち地上整備員にも戦死者が続出した。しかも、我が方の人員機材の補給が満たされないのに比し、米軍は日増しに増強して戦力の差は大きくなつていった。この状態が続けば、私の死も近いことが予想された。毎夜「今日は無事だったが、明

日は俺の番かもわからんぞ」と、言い聞かせて眠つた。

疲れて眠りについた深夜、心の奥から「びくびくせずに潔く死ね」という声が聞こえてきた。ハツと気が付き、「そうだ！自分の死は祖国に捧げる尊い行為だ」と思つた途端に、すんなり死を受け入れることができた。いずれ死ぬ身だ、前から撃たれて死のうと思つた。しかし、このような大それた考えが自分にできるはずがない、確かにこれは、宇宙の意志を帯びた魂の力だと直感した。自分が魂の存在であるのを知つた瞬間だつた。死という究極の孤独が、知らせてくれたのだ。それ以来、心は晴れ渡り、勇気が湧いてきて、不思議にも弾雨の中を平気で動き回れるようになった。だが、3年間の奮闘の甲斐なく戦いは終わりを告げ、私は生きていた。戦後は生かされた命を人のために活かし切ろうと歩んだ。

今も孤独は、自分と向き合う、魂との交流の場になつている。究極の孤独が産んだ魂は、心と身体を統御・支配し、克己は苦でなく喜びになつている。寡黙だが直感が鋭く、人を見る目ができて友は少ないが深い。この孤高の存在を素晴らしい特質だと自負している。

102歳の今も孤独を楽しみ、克己の生活を営み、心は平安と豊かさに満ちて

いる。両親と先祖の積善に、満空の感謝を捧げてやまない。

多田野語録  
悲愁を越えて

会員 多田野 弘

「悲愁を越えて」とは、深い悲しみや憂いを乗り越えて、前を向いて生きぬけよという意味である。私の長い人生を振り返り、最大の悲愁は戦争での体験といえる、多くの戦友が目の前で命を落とし、我が身が死の危険にさらされ続けた3年間である。死がもたらす別離の悲しみと、死が我が身にせまりくる日々を乗り越えた。

私は不思議に、戦場の中で過ごすうちにいつの間にか死を恐れなくなっていた。それは多分、嘗ての戦場における行動を通して、死の見方が変わっていったと思われる。毎日やってくる敵襲に対する激撃戦闘で、私たち地上の整備隊員の中にも次々と戦死者が出た。その度に戦友同士が亡骸を担いで行くのを見送った。別人かと思うほど変わり果てた彼らを見てまさに、明日の我が姿ではないかと思うと、悲しみはどこへとやら、ただ肅然として神妙な気持ちだけしかなかった。彼らはもう死の危険がない安住の居所に移れたのである。冥福を祈りながら、祝福してやりたいときえ思った。

私は隊員の中で一番やる気がある兵士と見られていた。その所為だろうか、死が見え透いた危険な場所に次々に派遣された。その度に、良い死に場所を与えてくれたと、進んで出ていったが、結果いつも生かされてきた。これはどう考えても私の力ではない、宇宙（神ともいう）の意志を帯びた、魂の力であると信じるようになった。以来、私は宇宙教の熱心な信者になった。その功德が、102歳の私の生涯をつくってくれたといつて間違いない。

魂の存在に目覚めた私は、死に対する考えも一変した。死は何ら恐るべきではない。死は、魂の容器である肉体の消滅であつて、魂は形がないから消滅しない。消滅しないのだから永遠に生きると考えた。死は悲しみ恐るべきものでなく、死は眠りと同じだということである。

私たちは毎夜、就寝するのだが、自分がいつ眠ったかを知る人いない。なぜなら、眠った時、すでに意識がないから知ることができないのである。私たちの死も眠りと同じでいつ死んだか知らぬ間に死んでいるのである。死とは大いなるものから預けられた命をお返しすることだと捉えている。

かつて私に、臆することなく命を捨てての覚悟をさせた魂の存在を知って以来、

強力な自信と豊かな精神力の保持者となつていた。その自信と精神力は克己の行動となつて、私の人生をつくつたのはいうまでもない。克己の行動は最大の喜びを伴い、次々と苦難を凌駕していき、克己の行動は喜びになつた

戦争という悲惨な人間同士の殺し合いは二度と起きてはならない。が、戦争が我が身に与えた苦難、それを乗り越え奇しくも帰還できた体験は、私にとつては成長進歩の糧となつた。故に、わが身に起る如何なる苦難も、必要だか神が与えてくれたのだと受け取れるようになった。思えば、私の一生に無駄なことは一つもないのは、苦難の全てがプラスに転じているからだ。

死は生と同様に、必要だから与えられているのである。死があるからこそ私たちは生きていくことが喜びとなり、一日を充実した悔いしないものにすべきと考え。以上、私の体験から「悲愁を越えて」について述べた。一目いただければ幸甚である

多田野語録  
時代を拓く

会員 多田野 弘

時代を拓くとは、自分を拓くこと、自分の運命を拓くことである。一つの時代に対し、自分の運命を拓いていける人に

して、初めて時代を拓くことができる。私は間もなく満103歳を迎えるが、百年余の人生をどう拓いてきたかを問うてみる。

私の波乱に富む生涯を貫いてきた気既は何だったのだろうか。振り返ってみると「独立自尊」の気質ではないかと思う。それは小学校の頃から始まっている。1年生の終わり頃、担任の先生が訪問され母に、「多田野君は答えが分かっているも手を上げない」といわれた。私は、もし間違っていたらと思つて挙手しなかった内気な少年だった。皆笑うだろうが、今でもそのシャイな気質が残っている。1学年が終わり、通信簿を母に見せた。品行方正、学力優等、席次1とあり、母の嬉しそうな笑顔が見えた。在学中は席次1を保持し、級長にも指命。なぜこのようなことを、自慢たらしく述べたかは、最初に掲げた独立自尊に関わっているからだ。

家で教科書を開いた覚えがないのに、好成绩だったのは、多分、父母や先祖の血筋のおかげだろうと考えた。とはいえ、皆と違っていることだけは確かだった。むしろ、皆と同じであつてはいけないう、違つてなければいけないのだと思うようになった。同級生たちも一日置

た。他の気持ちを付度する必要がなくなり、自由に過ごすことに、孤高の誇りさえ持つようになった。このような経緯が、「独立自尊」の気既を培ってきたのだといえる。

小学校を終える頃、父から大阪の職工学校へ行くよう勧められた。私は職工養成の学校などへは行きたくないと返事を洪つた。自分の学力ならどんな有名校へも行ける自信があつたからだ。父はさらに、この学校は優秀で競争率が8倍だといふ。香川の有名校でも、競争率が2倍とか3倍になったと言つて大騒ぎしている。ならばと挑戦を決め、合格した。それにしても、13歳の子を大阪に送り出した父の英断に今でも感謝している。私の人生を拓く端緒になつていくからだ。

入学してみると、校名のとおり、学業に比して実習時間が多かった。しかし、ここで機械工学の基礎を習つたことが、私の一生を貫く仕事の礎となつた。また、実習からは、汗と油にまみれて働くこと（労働）が、苦痛ではなく悦びになることを知つた。まさに運命は、自分を拓いていくものだといえる。5年の学業を終える頃、自分の将来について父に問うてみた。卒業すれば間もなく徴兵検査があり、陸軍は2年、海軍は3年の兵役の義務があつた。

そこへ耳寄りなニュースを入手した。海軍では、工業学校機械科5年修了者に對し、航空機整備に従事すれば兵役の義務を1年とし、後は予備役とする志願制度が発表された。私は卒業後早く社会に出て、実力を試したいので志願する旨を恐々述べてみると、快く賛同してくれた。その頃巷間では、「誰も嫌がる軍隊に志願する馬鹿がいる」と言われていたが、自分の人生は自分がつくるものだといふならなかつた。昭和14年10月（徴兵1年前）に横須賀海軍航空隊に第1期生として入隊した。入隊前「海軍は殴つて教える所」だと聞いていたが、予想外の凄まじいものだった。私たちの懸命の動作に関わらず、「遅い、気合が入つてない、娑婆つ気が残っている」などと注意され、その度に鉄拳の制裁を頂戴した。普通3年かけてつくる海軍軍人の素養を、1年で済ますのだから当然だった。一日中が緊張の連続で、全身全霊を捧げて過ごした。1年を終えてみると、我ながら惚れ惚れするほど遵しく、心身共に成長しているのに気づいた。よくぞ殴つて鍛えてくれたと、今でも海軍の伝統と気風に感謝している。1期生の教程を終えて予備役に編入されたが、時を経ずして召集令状が届いた。すでに日米戦争が始まつていたのである。指示された航空隊に入つ



たが、そこは搭乗員養成の隊だった。前線からの激しい戦闘のニュースに、私はじつとしておれず、上司に前線の部隊に転属を申し出た。隊員の中では私だけだった。この独立自尊の判断が、後の私の人生を拓く基になっている。

徴用の貨物船で、ニューギニヤの東隣ラバウル基地に向かう途中に日本軍が占領して間もないウエーキ島に寄港した。接岸して甲板上から見た光景は驚きの連続だった。海岸の砂浜には、上陸戦の時に乗り上げた我が駆逐艦2隻の残骸と、戦死した多くの日本の将兵の墓標が立並んでおり、並び立つ多数の塔が、日本にはない電波探知機であることが分かった。飛行場を見ると、多数の土木建設機械を日焼けた半裸の米軍捕虜が運転し、滑走路の周囲で働いているのが見えた。それ機械はすべて、油圧構造であるのが分かった。運命は恐るべき力を持っている。その光景から得た印象が、戦後の私の人生をつくった油圧クレーン開発のヒントになっている。

運命をどう考え、人生を拓くかが今回の命題に大きな比重を占めている。運命には、私たち人間の浅はかな知恵の及ばない、宇宙の大きな力が働いていることを念頭に置かなければならない。それに

私たちがどう関わっていくかによって、人生にプラスに働くかマイナスに作用するかが決まるからだ。普通運命を「決まりきった人生の予定コース」で、生涯動かすことのできない「宿命」のように解釈しているが、運命は固定的なものではなく、可変的なものである。運命はその素材を与えるだけで、それを私たちの責任において、プラスにもマイナスにもできる。運命より強いのは人間の精神である。何かが起こった時、私たちの対応の仕方を全く違ったものにする。善いことが起こるより悪いことが起こりがちだ。いいことばかり起きる人生なんて、どこにも存在しないという、運命の凡てを肯定することである。それは無力の諦めでも、戦いの放棄でもない。苦しくともそれを受け容れることである。それは丁度、自分にとって必要だから与えられたのだと受け取るのである。運命には指一本逆らえないと思ってしまう。人間は運命に操られるロボットに化し、自主性や主体性、自由を失ってしまう。私は、自分にまつわる運命は可能な限り変えていくがもしそれが不可能であれば、例えそれがどのような理不尽、不条理なことであっても、嘆かず悲しまず起きたことは起きたこととして事態を受け容れ、その上で、

さてどう対処すべきか最善の方法を考える。結果うまくいったか、いかなかったかどちらの場合でも、精神的に成長できると信じている。運命に叩かれ。鍛えられ、苦しむことがなかったら、私の人生は形成できなかったことは確かである。青年期に過ぎた過酷な戦場の体験から、運命をどう受け入れればよいかを学ぶことができた。迫りくる避けられない死の運命を、進んで受け入れた瞬間、全てから解放された自由と、計り知れない精神的支柱を得られた。あの幸く悲しい、みじめな思いは三度と味わいたくないが、運命とはそういう選択不可能な出来事なのである。たとえ好ましくない運命、避けたいと思う運命ほど貴重な教訓を合んでいる。私は、運命には、無意味なもの、無価値なものはないと確信している。運命は「人間万事 塞翁が馬」の例えのように、幸運の裏に災いの種が潜んでいるし、不運と思われる中にも好運の種が隠されている。フランスの哲学者ベルグソンは「人間というものは、自分の運命は自分でつくっていきけるものだ」ということを、なかなか悟らないものである」と述べている。私の独立自尊の気概が、自らの運命を拓き、時代を拓いてきたといえるだろう。

特攻隊員へのインタビュー

会員 中川 法宏

陸軍特別攻撃隊 第303振武隊  
土田昭二伍長



第303振武隊第1編隊

前列左から3番機土田伍長

本間伍長

後列左から編隊長東山少尉

2番機伊藤軍曹

(通信 隊長機)

(昭和20年7月27日 甘木の写真館にて)

少年飛行兵15期生

私の家は貧乏でね。口減らして言葉があるでしょう。その典型です。父親は新潟の田舎の村の書記をやってて、その上子供が8人もいたら一人いなくなっただけでも大分と楽になれるわけです。そこで学校の先生に相談したら「成績は良くて家の事情では仕方ない。でも少年飛行兵の募集があるからそっちはどうだ」ということで書類を書いてくれた。私はその頃から飛行機が好きだったし飯も食わせてもらえるからそれ以外の事は考えなかったね。

でも少年飛行兵は競争率が高かったから私みたいな尋常小学校高等科卒業では受からんと思ったんですよ。だから立川の陸軍航空廠青年学校に行って昼間は働いて夜間は歴史、国語、数学なんかを勉強しました。少年飛行兵学校に合格するようにね。

少年飛行兵学校の試験は普通の学科試験でしたね。それと口答試験です。どれだけ愛国心があるかを見てたんでしょうな。身体検査は視力、三半規管が中心でした。航空飛行兵学校へ入学してから適性検査を受けて通信、操縦、整備に振り分けられるんです。やっぱり飛行兵になるからには通信や整備では胸張れないからやるには操縦でと思いました。

試験の結果合格です。村では出征軍人がしかも志願兵が一人増えたわけですから村長さんはじめみんなでお祝いしてくれました。うちの親父なんか自慢でしたね。

昭和17年10月に東京陸軍少年飛行兵学校に入学しました。日本人だけでなく台湾人や朝鮮人の学生もいました。入学して最初の一年は午前は普通科で一般中学程度の勉強をして午後はグライダーや教練、大砲、拳銃、機関銃の訓練です。馬に乗ること以外はしましたね。将来は航空飛行兵の幹部になるけどそれに耐えられるだけの肉体と精神力をつけねばならんというわけですね。グライダーはみんなで縄を引っ張って飛ばすのと車の力で飛ばすのがありました。ここでは本当にしっかりと勉強させてもらいましたよ。私たちが入った後、昭和18年、19年に入学した連中は短縮短縮で正規の訓練ができないから乙種ってのができた。特別幹部候補生とか中学卒業してる人たちは学部の勉強終わってるから繰り上げで卒業して行きました。だから私たち15期生が正規の授業を受けて卒業した最後の学生ですね。

### 熊谷で初飛行

昭和18年9月に少年飛行兵学校を卒業

して10月から熊谷陸軍飛行学校に行くことになりました。ここは爆撃機専門です。飛行機の操縦をするなら戦闘に行きたかったですが偵察、戦闘、軽爆、重爆と分科されるんですがそれは各自の適性に合って振り分けられるんです。みんな承知してました。とにかくケンカっ早いか運動神経がいいとかそんな奴は戦闘隊へ行くわけだ。理工系、数学が得意な奴は偵察に、体が大きくて運動神経が鈍いのは重爆。僕はすばしっこい方だから軽爆に行った。軽爆は山と山の間を縫って飛行して敵の飛行場手前で上昇して急降下爆撃して帰ってくるのが軽爆戦隊。

飛行に関しては「ガソリン一滴が血の一滴」なんて言われていた時ですから地上で模型を使って徹底的に教え込まれるんです。離陸の時はこうだ、旋回はこうだとか。実際の飛行は一回につき7分だけです。その7分で習得せんといかんのですから。

もちろん操縦だけの知識だけではダメで気象や整備に関しての知識もないと話にならない。どこにどんな部位があるか、部品があるか。そんなことを勉強しました。それに出れば一人ですから自分で対処できるようにです。

はじめの飛行は赤トンボの後ろに教官

を乗せての訓練ですよ。初飛行は19年3月で熊谷飛行学校新田教育隊です。教官は後ろで私らの飛行技術についていろいろ記述をとったり指導したりするんです。教官、助教が何人かいますが自分の教え子が一番最初に単独飛行をしたら自分の教え方が上手かったということでも自慢になるんです。だから教官としても必死ですよ。鉄拳食らうともありました。

「お前は死んでもかまわんが飛行機は壊すなよ！」なんてことも言われた。飛行機は天皇陛下からのいただきものだからね。厳しい訓練でした。結果、この教育隊で一番最初に単独飛行したのは私でした。これがのちに恩師の銀時計をもらう基準になったんですよ。

初めての単独飛行は5月ですよ。「やつた！」そんな気持ちです。教官に感謝すると同時に早く故郷の両親へ伝えたい気持ちでいっぱいでした。これは体験した者でないとわからないでしょうね。何年前か前、少年飛行兵の同期生で太田というのがいて単独飛行の話をしていたら「つわもの、生きて帰らぬ雲の峰」と書いて送ってきた。でも字で書けといわれなくても書ける物じゃない。

ここでは技術のほか精神訓話の授業も受けました。戦後有名になった藤井一中



児玉飛行場跡の碑 (埼玉県本庄市)

尉からです。あの方は第2中隊の中隊長だったかな。茨城の訛りのある言葉でね。頑なな人でした。後で奥さんと子供を自殺させて特攻隊に志願した話を聞いて「あの人ならやるだろうな」そう思った。私が特攻隊を志願して埼玉の児玉飛行場にいたとき藤井教官が来たんですよ。知覧へ特攻出撃するのに立ち寄ったので会いに行きました。藤井教官は操縦者じゃないんだけど自分の教え子が次から次へと特攻出撃して行くので血書嘆願して出撃して行ったんですね。無骨な人でした。

反省日誌から  
昭和20年3月4日

かねて希望の藤井中尉殿に面会し親しく話をし大いに激励された。「振武隊第四十五隊」との事。本年度の靖國神社の大祭に間に合う予定であるから、新聞を見て待つて居れと。極めて平然とした態度である。いささか圧倒されて口がきけなかつたが心中深く感じさせられた。

#### 児玉にて特攻志願

休みの時なんかは兵器の手入れとか反省日誌をつけたりしていました。新田教育隊を卒業して滋賀県の八日市飛行場で訓練することになりました。

ここでは九十九式軽爆撃機にも乗りました。操縦、副操縦、後方と前方に機銃士がいた。八日市飛行場は琵琶湖のすぐ近くです。ここでは低空飛行の訓練をしました。琵琶湖の水面から5メートルぐらいの上を飛ぶ訓練をする。それぐらいの高さだとプロペラが水面につかなくても水しぶきを巻き上げるんです。もし、水面にプロペラが触れたら「く」の字型にプロペラが曲がって墜落してしまふ。

ある日の練習でその事故が起こったんです。九九式軽爆は寸胴の機体だからすぐには沈まない。その間に琵琶湖の漁民が船を出してくれたので、みんな無事に助けられた。一週間ぐらいして沈んだ機

体を引き上げてみたら魚がいっぱい入っていたそうだ。

戦局が悪化して負け戦といえど正確に情報は入ってきていた。特攻隊が編成され出撃するようになってからは毎日朝礼のたびに戦果報告を受けるわけだ。自分たちの先輩が我先にと出撃して行って戦果をあげたと中隊長が言うわけだ。周りにいる連中も自分が早くいかねばと、そんな空気が伝わってくるんですよ。そんな中で訓練を受けていて「自分は特攻に行けません」なんて言えますか。埼玉の児玉飛行場にいたとき、志願して特攻隊に編入されました。同じ隊は少年飛行兵の14期と15期です。それと予備下士といつて通信省のエリート下士官候補生もいた。少年飛行兵15期生は特攻で一番たくさん戦死しています。私は第303振武隊に所属して当時陸軍伍長です。

特攻は敵の船に体当たりするだけだから今までみたいに戦闘や偵察なんてない。軽爆乗りだからと言っても関係ありません。ただ、対基地攻撃から対艦隊攻撃に代わるとまどいはありました。ビルマ戦線で活躍していた先輩の話は敵基地の攻撃爆撃の話でしたからね。

特攻隊に編入されて与えられた飛行機は双発の一式双発高等練習機で中は座席が12席ぐらいあってトイレなんかもある。



一式高等練習機

本来この飛行機は爆撃機に乗る過程の練習機ですよ。この飛行機をマスターして爆撃機に乗るわけです。この飛行機の座席を取っ払って500キロの爆弾を積んで特攻機にするんですが、こんな飛行機で特攻なんかできないですよ。参謀本部は「技術と精神力でカバーしろ！」なんて言う。練習機だから銃器もない。それを自分の創意工夫で何とかしろというんです。

練習の時も500キロ爆弾を積んで練

習しましたが操縦桿が重くてなかなか機体が上がらないんです。だってもともとそんな飛行機じゃない。レバー全開にして離陸したらすぐレバーを戻す訓練をする。爆弾は操縦桿の隣にレバーがあつてそれを引くと信管が外れるようになってました。急降下すると翼の面積が広いから浮力が働いてしまうので敵艦突入の際にはその力に負けないように操縦桿を中腰の姿勢で倒して突入するんです。

訓練中、戦友が事故死することもありましたよ。そんな葬式に何回も立ち会つてさ、次の日にはまた訓練です。だから飲めない酒を飲んで気を紛らわせて訓練するんです。昨日まで隣にいた戦友が事故で死んで文字通り屍を乗り越えてきたんです。急降下の時、プロペラが外れたりして墜落死ですよ。もともと水平に飛ぶ飛行機なのですから。私もビスが飛んだことがあります。その他にも空中で飛行機同士が衝突して墜落死した仲間もおります。

反省日誌から

5月6日

朝礼後、「決と号部隊」の編制発表さる。我も其の一員なり、かねてよりの希望故別に感なし。只之が為爾後の行動に異変を生ずる勿れ。午後、演習。大部暇だ、と号部隊とてさほど遠慮する必要は

ない。この期に死直前迄努力一貫で進もう。

### 出撃命令下る

私の原隊は八日市ですから児玉飛行場から一度、八日市に行つてそれから福岡の大刀洗飛行場へ配属されました。いよいよ出撃待機です。この時、瀬戸内海の上を飛んでいけばいいんだけど瀬戸内海も制空権が無いから通つていけない。だから日本海の出雲のほうを飛んで遠回りして行つたんですがアルプスの山を越えるのに練習機では高度が上がらない。

私は3番機に乗っていましたが、この飛行機が一番オンボロらしく整備兵の山下曹長と一緒に乗っていました。3000メートル級の山を越えるのに隊長機は上昇できるのに私の飛行機は下の方でアップアップしてるのさ。今みたいに携帯電話でもあれば連絡しあえるけどそんなものない。そうしたら隊長機が私の飛行機の高さまで降りてきて引つ付けてくる。隊長が白い手袋をして上がれ上がれと合図するのが見えるんだけど幾らエンジン吹かしても思うようにはいかなかった。いざ大刀洗についてみると空襲の後で滑走路はボコボコです。どこに着陸するんだってもんだ。そうしたら森の中から整備兵が出てきて自分たちの使う敷布を滑走路にならべて、ここに着陸しろつて

合図するんです。敷布の敷いてある部分は爆撃でやられた穴も埋めてあった。きつとスコップで一つ一つ埋めたんでしような。東山隊長が初めに着陸。しかし2番機と3番機は接触事故を起こしてしまつた。そんなこともあったけど何とか、かんとか大刀洗に到着することができました。

20年8月2日、本部から出撃命令が出た。翌3日出撃です。サダ岬南を敵艦北上と聞いたんだけど、その時私たちはわからなかつたな。サダ岬は鹿児島県の佐多岬と愛媛県の佐田岬と二つあって愛媛県のほうでした。

毎日死ぬことを前提に生活していたから訓練の時から常に禰だけは奇麗にしておけと言われていました。もし訓練中事故死して家族が来たとき禰が汚いとみつともないというんです。だから出撃前も新しい禰を締めて準備していました。靴の手入れなんかもいつもピカピカでした。航空飛行兵学校ではいつ死んでもいいように心構えを教えられていましたからね。「自分が死ぬことによって国民が幸せに暮らすことができる」そんな教育を受けていましたから人に迷惑をかけず清潔に生きていました。

出撃準備をしていましたが佐田岬に向け北上していた敵艦隊が南下したため出

撃は中止となり次の出撃を待つことになりました。この時の心境は日記にはこうあります。毎日自分が生きていることを確認するんですよ。

8月7日

未だ死せず、今日も太陽を見る。鶏が三羽何もなげに遊んで居る。一瞬、平和な夢のような気がする。しかし、我等の心は既に命を預けて六日間、文字通り緊張の連続なり。

牛も居る。可愛い子供たちが遊んで居る。噫々未だ命があるのだ。

### 8月15日の出撃命令

出撃が中止になって今度は出撃待機になった。死刑執行を待っている心境でしよう。そして大刀洗に来てこの人たちが特攻隊なら何とかしてくれるんじゃないかと思つているのが伝わってくるんです。特攻隊が戦果を挙げたら空襲が楽になるんじゃないかとか戦局を挽回してくれるんじゃないかとか。そんな中で次の命令を待っていた。終日待機しているのです

が暑いさなかですから「振武隊は水泳に行く」と告げて近所の池に水浴びしに行つたこともありました。ただ、いつ出撃命令が来るかわからないから100メートル

14日は夕方から最後の夜間飛行訓練を

行い翌8月15日の朝、再度出撃命令が出ました。「15日夜8時に突入せよ」でも、そのすぐ後、陛下の放送があったんです。宿舎の前の空き地に整列して聞きました。が雑音で何が何だかわからない。同じ振武隊の本間君に聞いたら「一生懸命にやれつて事じゃないか？」という。戦隊本部のほうでは正確に伝わっていたようなので東山隊長に「あれはどういうことですか？」と聞いたら負けたことを教えてくれました。

血気盛んな奴が「なんだこんなもの！」なんて飛行場に行くから私たちも行つたさ。そうしたらガソリンは抜いてあるしプロペラは外してある。タイヤの空気は抜いてあるし、滑走路にはドラム缶が置いてある。つまり飛行機が飛べないようにしてあった。戦後に聞いたのは第6航空軍の命令でそうしたそうだ。

終戦の気持ちは東山隊長の言葉で言いますが「戦争に負けた悔しさ、負けた恥ずかしさ」

反省日誌から

8月15日

11時、第六十六戦隊本部より、緊急情報入る。

佐多岬二八〇度、二八〇キロに四百隻の敵機動部隊北上中、攻撃命令下る。

概ね今晚二〇時出撃の予定、爆弾懸吊、

官給品及び私物品返納品の準備完了待機  
す。

銘記すべし、皇国三千年の歴史遂に亡  
ぶ。本日一二時、畏くも大元帥陛下の玉  
音に接し、驚愕せり。一億国民の心中如  
何ばかりならんや。世界に誇る帝国陸軍  
の特攻隊員なりし我等の身上実に嘆か  
しい極みと言うべし。

夜、東山隊長殿と相談、将来の進路を  
語る。以下省略！！

語り残すこと

この日記を見ると父の危篤なんかで四  
回ぐらい家へ帰っているし正月なんか  
も帰っていますから、その度に日記を家  
に置いてきた。だから今こうして残っ  
ているんです。普通なら残っていないで  
すよ。隊長や上官はみんな処分してい  
ます。私は集めるのが好きというか親父やお袋  
が死んで部屋に置いておいたのがちよ  
うど三年分あったんです。他の奴らに見  
せると「お前よくこんなに残ったなあ」  
なんて言う。でもいっぺんに持ってき  
たわけじゃない。

私の兄は19歳で他界し、両親も昭和20  
年、終戦直前に相次いで亡くなりました。  
幼い弟や妹が6人残された訳です。この  
世話に愛国婦人会から酒井喜代子とい  
う女性がきてくれたんですが、この女性

今の女房です。だから頭が上がらない  
ですよ。

特攻作戦に関しては私は下級下士官だ  
から自分は命令を実行すればいいと。そ  
のためには黎明薄暮に出撃して敵の戦  
機に会わないよう自分のもてるだけの技  
術を發揮して使命を果たそう。それしか  
思わなかった。敵の上空まで行けた飛行  
機も精神力だけで行ったんだから無謀と  
言えは無謀だな。私が大刀洗へ行く時、  
同乗していた整備の山下曹長は戦後、戦  
友会で「私が飛行機の整備を完璧にし  
ていることはそれだけ若い兵隊を死な  
せてしまう事だ。第303振武隊が出撃  
する時、その責任をとって私も一緒に行  
く覚悟だった。もし、反対されたなら一  
番最年少で階級が私より下の土田伍長  
の飛行機に乗り込んで出撃するつもり  
でした」そう告白してくれた。

知覧から出撃して行った特攻隊員の  
名簿を見て、友達の名前を一人一人数  
えたら67人もいた。みんな少年飛行  
兵15期生ですよ。それと、出撃して  
行った隊員で「死んだらホタルにな  
って帰って来ると言った人がいるで  
しょう」。その人は私と同じ新潟県  
人だから私が声をかけて知覧にホ  
タルの碑を建てました。

※宮川三郎少尉 新潟県出身 20年6  
月6日 第104振部隊として知覧出撃

死

今の若い人に言いたいのは愛国心が足  
りないって事だな。自分の生まれた国を  
愛せずになんで妻や子供が愛せようか  
つて思うんだけど戦争を経験してない人  
にはわからないかなあ。  
インタビュー日時

平成21年5月17日

参考文献

特攻日誌 東方出版  
特別攻撃隊の記録（陸軍編） 光人社



土田昭二伍長

人間機雷 伏龍

鈴木道郎上等飛行兵長

予科練乙24期入隊

中津川出身の昭和5年生まれ。8人兄弟の4番目です。学校で先生が「予科練に行つて国のために頑張つてくれ」というんです。当時、予科練は人気があつて士官学校か予科練かというぐらい。だから

ら受験勉強してね。第3次試験は大竹であつてそれに受かると採用です。昭和19年12月26日の夕方6時ごろですが風呂を焚いてたら郵便屋さんが来て「おめでとうございます！道郎さん、予科練に合格です！」採用通知が届いたんです。私の学校では40人ぐらい受験して最終的に採用されたのは私と鈴木智治君の二人です。



横須賀の写真館にて写す

昭和20年の1月12日三重海軍航空隊奈良分遣隊に入隊しましたが家を出るとき村の鎮守の宮、村の御宮とお参りして旗に「鈴木道郎君 鈴木智治君」って書いてもらつてみんなでぞろぞろ歩いて日の丸振つて送つてくれました。私の村には鉄道が通つておつたですが煙を出して走る奴であまり力が出ない汽車です。それで岐阜で集合して奈良に行きましたが木造二階建ての建物が兵舎代わりで天理教の各県の詰め所が兵舎代わりになつてました。だから初日は兵隊になつた気持ちがありませんでした。

午前中は教科、午後は陸上練習、陸戦です。朝は5時半くらいに起きて駆け足で練兵所まで行つて号令の練習して、帰つて来て顔を洗つて食事ね。教科は国語、数学、理科、社会。4つぐらいかな。教科を覚えなきゃいけないし戦陣訓の長いやつを一週間で覚えろとか。覚えられないと尻ビンですよ。海軍精神注入棒でやるんですが一発目は我慢できても三発目ぐらいになるとひっくり返っちゃう。引つ叩かれる時はお尻を突き出すようにすると意外に痛くない。でもトイレに行つてしゃがむと痛いもんです。

奈良はベットじゃなしに普通の床の所に敷布団、毛布、掛布団を敷くんですがたたみ方が悪いと「なんじゃこれは！」つ



て怒られる。軍隊点検で250人が並んで自分の私物を並べて検査されるんです。糧はあるか、必要なものが一つでもかけてたら大変ですよ。寝る時間になったらやっと楽できるんです。

同郷の智治君はうちの近所ですからよく知ってるんですが彼が手を後ろに組んでたんですね。軍隊では手は必ず真横です。敵はどの方向からくるかわからないから、すぐに動けるように真横なんです。でも冬は寒いでしょう。隊の中に神社があつて「お参りに行こう」って誘つて彼は手を後ろに組んでたんですね。私は運良く手は横にやとつたもんでね。「貴様！来い！」って隣の22分隊の班長に見つかつて「貴様ら手をどこで組んどるんだ！違反じゃないか！歯を食いしばれ！」それで殴られて鼻血がでました。まだ来て三日だけど「えらいところに来たなあ」と思つてね。

天理で訓練受けて卒業する時、戦闘だとか偵察だとか分科の発表があるはずですがそれもなしに岡崎航空隊に行けつてことになりました。

### 特攻志願

特攻攻撃は歴史の神戸先生が「日本は絶対負けん。一機一艦で当たれば必ず勝つ！」ぐらいにしか聞いてませんね。自分が予科練に行くのは死に行くとは思つ

てませんでした。が兵隊に行くんだからどこかで死ぬ覚悟はしてましたけど。特攻隊志願したときも特攻隊になった時自分の命が惜しいとか悲しいとか全く思わなかつたですね。全然です。日本の国を守るために兵隊になつたんだからやらないかん。特に今は厳しいんだからやらないかん。ただ、軍隊に行くときは特攻隊に行くつもりはなかつたですが軍隊に入つてから特攻に行くことを物凄く希望しましたけど。

特攻隊に志願したときは岡崎航空隊でした。奈良航空隊は3月までいて岡崎に行つて4月5月とおりました。同じ年齢の者、14歳は250人。岡崎に行つてから分科するんかなと思つてましたが、分隊士が「実は日本は今大変な時期に来ている。俺も必ず後から行くから特攻を志願する者は前へ出よ！」って言われて99パーセントぐらいの者が前に出ました。長男は志願しなくていいとかそんな話があつたですね。あの頃特攻隊言うたら憧れみたいなもんです。予科練入つて死ぬんだから、どうせ死ぬなら特攻隊だ。飛行機に乗れんものが震洋だとか回天だとかに行つたとも聞いたつたから「それでもええわ」と思つてました。前に出た者は「よし！検査する！」3日間ぐらい身体検査があつて「なんで特攻隊に行く

のにこんなに検査があるんだ？」肺活量、呼吸器系統、鼻が詰まらんか、蓄膿がないか、それから判断力や決断力、腕力、脚力調べられてね。「ただいまより発表する！全員集合せよ！」って集められて「鈴木一飛！」って名前呼ばれた時、みんなが騒ぐんですね。「鈴木！良かったな！」続いて名前が呼ばれて結果、約250人が志願して採用されたのが9人。検査の意味が久里浜に行つて初めてわかりました。「なるほどなあ。これは大変な訓練だなあ」と詳しく身体検査した意味がわかりました。

特攻隊に選ばれることは名誉なことだと思つてましたから「俺が俺が」つて。血書志願した者もおつたそうです。特攻の訓練中、柱にしがみ付いて「死ぬのが嫌じゃ！」とか「俺は死にとうない！」とか言つたつたとか中日新聞の記事(終戦記念特集で伏龍隊を特集した記事)に書いてありますけどそういう事は絶対に書かない。新聞記者が隊員から聞いた話をちよつと曲げて書いたことがあるかもしれん。中には一般から志願した方もいるかもしませんが99パーセント予科練です。特攻隊員に選ばれたときは嬉しさ最高でした。

岡崎から特攻隊を選んだあと、岡崎第一航空隊はいらなくなつたのか基地防衛

とか穴掘り要員に分かれて行ったそうです。

### 伏龍特別攻撃隊

特攻隊に選ばれたときはみんなで「良かったな！」ってお祝いですよ。みんな特攻に行きたい、死ぬのは当たり前。ならば特攻だと思ってました。どんな特攻だろうと思つて我々9人久里浜に行つたらコップに水を入れて蓋をしてストロウで「これを吹いとけ！」です。実際に伏龍を見せられた時、「これで特攻？」と思うしましたよ。「そうだ！これで機雷をぶつけるのだ！」そのために呼吸法を訓練するんです。マスクを被つた状態でこれをやつてると車の窓が白くなるのと同じように曇ってくるんですね。そうすると酸素を出す装置がありますので内側に捻ると頭の上から酸素が出てきて奇麗に曇りが取れます。だから酸素不足では死なんぞつて自信がありました。しかし全身装備でやってみると「これは大変な訓練だな」そう思いました。14歳じゃないと無理だな。体に着ける潜水服は鉛の重りが入つて酸素ボンベ二本と清浄管を背負うと重さが80キロ弱です。船から潜水する時、階段から降りて沈んでいくときはいいんですが砂浜から歩いて海に入つていくときはその分、歩かないかん。悪いことに条件があつて、呼吸は鼻

から吸つて口から出す。これを間違ふと頭がクラツとなつて倒れちゃう。すぐに酸素を入れてやらんと大変だ。これが死ぬ原因の一つ。潜つたきり帰つて来んだ。呼吸を間違ふと炭酸ガスが出てそれを吸つてまう。自殺する人が自動車の中で排気ガス吸うのと同じだ。でも車の中なら窓開けたら助かるけど海中だもんね。私も2回ぐらいガス吸つたことがあります。引つ張り上げられて水ぶつかけて助かつたんですがウサギみたいに目が真っ赤になつてました。

我々9人、まだ15歳ですよ。班長は訓練中に自分の部下を死なせたくない。死なせたら自分の評価も落ちるでしょ。瀬良班長から「お前たちは伏龍に向かないから原隊に帰れ！」そう言われたことがあつたんですが、誰かが「班長殿！帰るところがありません！解散しとると思ひます！」「そうか。仕方ないな。それなら置いとくか」そんなやり取りがあつて9人も残ることになりました。私は最年少だったから班長も気を使つてくれたんでしよう。誰かがへまして総員バツターの時、「鈴木！ちよつと来い！靴磨いといてくれ！」と用事を言いつけて助けてくれもしました。

### 潜水訓練

装備は使いまわして一人が潜水訓練を

してそれが終わつたら次の者が着て潜水します。潜水して深くても20メートルぐらいまでですね。上を見ると艇が見えるし明るい方向が海岸ですから命綱を見失つたら明るい方に行けばいいんです。一艇に5人ぐらいで訓練して一人当たり約2時間です。待つて居る間は楽なものです。2時間の潜水ですが中には我慢できなくてそのままオシッコしちゃうのもあります。着たら臭いんだもの。「海流の心配はないぞ」なんてことも言われましたが山の育ちなもんですからわからんです。天気の悪い日なんかは海流が速いんですが潜つたら何でもない。自由潜水の時なんかタコやヒラメを捕まえて浜で焼いて食べたりもしました。伏龍の注意点として呼吸だけ間違えないようにとか海岸から海に入る時、ひっくり返ると服や清浄管に穴が開いちやうから気を付けるとかさんなことですが当時15歳ですから大変ですよ。実戦では竿の先に爆雷のついたものをもつて潜水して敵の上陸艇の底を爆破するんですが、その訓練はやつてないですね。説明は受けましたが実物も見えないですね。頭の中ではそれが来たらやれるなとは思つてました。

装備を着て潜る時、潜る者と船の上で待つ者とに分かれますが潜る者の命綱を持つ相棒がいるんです。私の相棒は一期

上の中島飛行兵長で鹿児島の人です。実家はタバコを作ったそうです。「俺はお前のことをズキというからお前は俺のことをチュウマンと呼べよ！」ってね。私が潜って中島が潜って潜水浮上の繰り返し。班長が「浮上！潜水！」って号令をかけて艇にいる相棒が命綱を引いたりして潜水してる相棒に命令を伝えるんです。「中段止め！」っていったら海中を立ち泳ぎで止まってるっていいけないんだけどこれが難しいんです。頭が重いから気を付けないとひっくり返るし、マスクから空気を抜かないと潜水しないし立ち泳ぎをうまくやらないといけないんです。中島が空気を早く抜きすぎて頭から落ちて行っちゃった。命綱が私を持ってますからグッと引く張られまして「おかしいです！」って報告して引く張り上げてマスクとつたら血だらけですがまだ息があるんです。「ズキキー！」って手を上げてね。その姿が今でも忘れられん。訓練中死ぬのは潜水墜落か酸素欠乏か背中にしよつとるボンベに苛性ソーダが固形で入って呼吸で出した炭酸ガスを吸って酸素を出すんですがその過程で溶けて液体になるんですがこれが劇薬なんです。水圧か何かで清浄管に穴が開いて海水が入ると溶けた苛性ソーダがマスクに入ってくるから死亡事故になるんです。以上

3つが訓練で死ぬ原因です。毎日20艇ぐらいの船を出して訓練してそれが終わったら海岸から班単位で訓練をしてたんですが対潜学校の船がくると「誰か死んだな」ってわかるんです。あまりにも死人がでるので対潜学校の焼き場だけでは足らんようになっちゃった。一人焼くの一晚かかるもんでね。一日に二人も三人も死ぬこともありましたが早く焼かないと腐っちゃうから海岸でガソリンかけて焼きました。そんなの見たからたまつたもんじゃありません。「よくこんなところに来たなあ」そう思いましたよ。岡崎から行った者で死ななかつたのは私だけで後の8人はみんな訓練中に亡くなりました。毎日がそんなのですから今日も大丈夫かな、この仲間の声が明日も聞けるかな、なんて思いながら訓練を受けてました。

将校が足りなくなつて大学の20歳前後の予備学生が入ってきて対潜学校におつたんですが彼らが「お前たち予科練がとか言うけど勝負しよう！」って棒倒しから騎馬戦からやりましたが何回やっても予科練の勝ちでした。それを見て予

備学生の分隊長が「流石は予科練！」と認めてくれました。**出撃の機会無く終戦**  
本土決戦に備えての訓練ですから極秘です。家族に手紙を書くにしても元気でいるとしか書けない。特攻隊として出撃する前に家族に会って死にたいなと思つてました。実家の近いものは「今度の外出はいつです」なんて書いて出したら家族が面会に来るんです。私らは休みの時は横須賀に外出して食事してました。普通の兵隊と特攻隊とは服が違いますから見ればわかるんです。「兵隊さん、これ



【このようにして敵の船底をぶち抜くはずだった】

「食べて下さい」なんて物もらうことがありました。久里浜ではみんなそんな経験しとると思いますよ。鈴木貫太郎首相が見学に来たこともありましたな。「今日は総理大臣が来るから頑張るように！」なんて言われましたが、我々としては日々、頑張るだけです。

横浜は爆撃でやられました。が久里浜は何ともなかったです。爆撃を受けた経験はありません。誰かが「房総半島沖に大輸送船団！」って聞いて「いよいよよきたか！」その時、雨が降ってましたがみんながみんな潜水服やボンベや自分の物持って海岸のトンネルの所まで行きましたが、輸送船団は夜光虫だったとわかって解除になりました。「しっかり監視しろよ！」口々にそう言っていました。実際に戦うための棒機雷もないからおかしいなとは思いましたけど。なんで本物じゃなくても同じようなものを持たせて訓練させてくれんかったのか今でも思います。そうじゃないと実戦の訓練じゃないよ。敵が橋頭保つくったら逆上陸で海から攻撃するって話も合ったけどマスクは自分で外せんのだからどうやって攻撃するんだって。

「今日は訓練なし。話があるから兵舎待機！」そう言われて待機しとったら「本日12時に天皇陛下から放送があるか

ら一種軍装で整列せよ！」って言われまして。一種軍装っていったら冬の服です。「この暑いのに何があるんじゃない？」そう思いました。暑いのに正式な軍服を着て整列しておいたら訳の分からん。ピーパーガー・と流れてきて「天皇陛下の放送だ！」そう上官は言うけど雑音だけで何かわからせん。スピーカーが悪かったのかな？でも頑張れって事かなと思いましたが班長が「負けた！」

その時の複雑な気持ち。家に帰れるというのと負けたショックで何とも言えない。その翌日から班長が「ゲリラ戦の訓練をやる！」家に帰ってから各自山にこもって戦えるようにですが、それをやった班とやらんかった班とあるそうです。私たちは兵舎の倉庫から食料や武器をかつばらう訓練をやりましたな。「〇〇に何が あるから見つからんように取ってこい！」なんて訓練ですがあの頃は真剣にやっとなです。そのうち特攻隊員は一番に殺される、戦犯になるからってことで横須賀から無蓋車に乗って帰りました。ちょうど雨降らなくてよかったですよ。途中の駅で止まったら、私やないですけど誰かが駅長のほうに向かって拳銃をパパーン！って撃つんです。そうしたら「発車ー！」って動き出す。

名古屋まで行ったら中央線も動いとるっ

て聞いて嬉しかったな。とりあえず腹減ったから飯を食おうと駅の一階でパン食つとったらポロポロの着物着て真っ黒い顔した戦災孤児がじつと私のほうを見とるんだ。その子に分けてあげたらすぐには食わんのだな。みんなに分けてやるんだって。そしたら10人ばかり来たわ。ちょうど乾パンや粉を水につけると餅みたいになる航空糧食持つとったもんで彼らにあげました。

私の家は炭焼きですから炭焼き小屋に隠れて備えようと思ってきましたが事態が収まったので拳銃も手榴弾も捨てて兵役の履歴書みたいなものもあるんだけど破いちやってね。軍刀は捨てずにおいたら親父が「警察に届けにやいかん！」ていうもんだから警察に持っていったら「軍刀の先を切ってくれ」そういわれたんでもったいないけど切っちゃって今、手元にあります。

### 伏龍の語り部

中島達、死んだ連中みんな靖國神社に入ってますよ。お参りに行って「おーい！チュウマン来たぞ！」ついつい声が出ちゃうからみんな私のほうを見ますよ。終戦70年の時は靖國神社が私を上まで上げてくれてね。車椅子で行ったんだけどみんな椅子ごと吊ってくれて感謝です。ね。鹿児島にも毎年行ってチュウマンの墓参

りをしましたが今は家族もみんな死んでしまつたそうです。彼は「おふくろもこの月を見とるんだらうな」なんて真面目で純粋な男でした。何かにつけて「西郷どんは・・・」って彼から何回西郷どんの話を開かされたやら。私の大事な相棒ですからね。もしかしたらあの時の事故でも助かったかもしれないと今でも思っています。久里浜にも戦後一回だけ行きましたよ。「オーイ！チュウマン来たぞおー！」大きな声で言ったから警察に通報されましたが、近くに海上自衛隊の出張所があつてその役員の方が「もしかして伏龍の隊員の方ですか？」って来てくれて事情を説明したらいろいろ案内してくれました。その当時と今では全く変わつてしまつてますから。

講演会に来てくださいって依頼があるとお出でいくんですが7年前に脑梗塞やつちやつて左手左足が動かない。右足は伏龍で怪我して動かない。えらいこつちやなと思いましたがリハビリやればどうやらこうやら動くようになりました。こんな状態です。

予科練時代を振りかえれば200パーセント良かったと思つてますよ。何と言つても学校に行けたこと。手当も特攻隊は5割ぐらい多かった。いわゆる特攻手当つていうやつです。実家に持ち帰つたら家

が建つぐらいですがそれを学費に充て中津農林に入りました。その後教員になるのに岐阜の大学にも行けました。大学では寮生活で金がなかつたけど特攻隊時代を思えば大したことないです。蛇を捕まえて焼いて食べてたら匂いに誘われて寮の仲間が「うまそうだな。食わせてくれよ」って。「ウナギにしては固いけどなんだこれ？」そこで蛇だつて教えてやりました。この話は今でもされますよ。

今の日本は教員が天皇を日の丸を否定したり労働歌を子供に教えたり、町内の御宮の祭りを政教分離違反だからやるなと言つたり、周辺の国々にやりたい放題されとつても何にもできんとかおかしなことになつてますから私たちの経験した事実を伝えてほしいと思つています。軍隊生活についても厳しかったけど悔しいとか班長が憎いと思つたことは無いですね。同期の者に聞いてもそう言っています。国を守るためには厳しい中で耐えられる人間でないとダメだつてことです。

私は乙種飛行予科練習生24期生で最後の予科練生です。特攻訓練では最年少で一日一日が生きることで精いっぱいでした。他の事は考える暇がありませんでした。

「ああつ、今日一日生きた！生きていた！」私は予科練時代に叩き込まれた教え、

予科練の五省訓

至誠にもとるなかりしか  
言行にはじるなかりしか  
氣力にかけらなかりしか  
努力にうらみなかりしか  
不省に亘るなかりしか

これが今でも私の人生の糧になつていきます。

インタビュー日時

平成27年12月5日

参考文献

特攻 最後の証言 アスペクト  
月刊誌 丸 昭和60年9月号 潮書房



軍刀を手に当時を語る鈴木上等飛行兵長

## 連載山ある記24 長野県「湯ノ丸山」

会員 池田 康博

竜門峡は、甲州市の日川（ひかわ）溪谷にあり、2・4kmにわたって遊歩道が整備されている。紅葉も終わりという11月14日に歩いた。

甲州街道の新笹子トンネルを抜けると間もなく景德院入口の表示が現れる。景德院は竜門峡を歩くにあたり、駐車場として利用しようと考えていた。案内に従って国道218号に入るとすぐに駐車場に着く。9時30分、標高は七百三十mである。

景德院は、武田勝頼の戒名だそうで、武田家滅亡の後、徳川家康によって、自害したこの場所に建立されたという。境内には、勝頼と北条夫人、息子、信勝の墓があり、また、勝頼と北条夫人が自害の際に座ったという「生害石」が残されている。武田家滅亡の場所は天目山と聞いているが、それがここだと知った。因みに、駐車場の下は「姫ヶ淵」という名の淵で、北条夫人の侍女16人が身を投げた場所だという。

日川の上流には上日川ダムがあり、大菩薩湖となっているが、当時は水量が多く、深い淵となっていたのだろう。

景德院を見学した後、大菩薩湖に至る218号線を歩いて竜門峡入口まで行っ

たので、着いたのは9時55分になっていた。ここから竜門橋を渡って遊歩道に入る。

遊歩道は、V字谷の日川に沿って作られており、最初は整備された快適な道だが、次第に細い道となり、崩落した橋の残骸もそのままとなっている所もある。行程の中ほど、対岸にある「落合三つの滝」は見所の一つとなっているようだが、河原を渡る橋が流失し、また、滝まで登って行く階段も崩壊していた。

溪谷を縫うように流れる水は急流で、岩にぶつかり、あちこちに小さな滝を作って激しい音を立てている。

また、いたる所にある花崗岩の巨石の中には、まるで筑波山の「弁慶の七戻り」を思わせる「平戸の石門」や、岩手の「石割ケヤキ」ならぬ「木賊（とくさ）の石割ケヤキ」が、岩を真っ二つに割った姿もあって、自然の造形、驚異も楽しめる。



蜘蛛淵

炭焼き窯の跡も残っている水と森林の道を歩いて11時3分、遊歩道のほぼ終点となる蜘蛛淵

（くもんぶち）に着いた。淵の上に平らな場所があったので、ここで少し早い昼食とした。

たつぷりと休憩を取った後、今回のゴールとした天目山栖雲寺（せいうんじ）に行くべく国道に向かって登り、11時41分、標高千五十mの寺に着いた。駐車場からの標高差は三百二十mとなる。

栖雲寺は、住職の話によると、勝頼自害から遡ること百六十五年前、甲斐の守護職であった武田信満が戦に敗れ自害した寺だという。信満と家臣の墓も見学した。武田家はその負け戦で一旦滅亡したそうである。

寺の石庭などを見学した後、12時26分に帰路に着いた。上りと同じ遊歩道を下って駐車場に着いたのは1時43分。武田家の奇しき歴史に触れた山歩きでもあった。（令和3年11月14日）



栖雲寺から富士山を望む

顕彰譜 (12)

会報 134号から始めた特別攻撃隊全史第二版の顕彰譜の  
ご紹介第十二回目です。

熊谷陸軍飛行学校

桶川分教場建物

陸軍航空



今も残る桶川分教場の建物 (兵舎棟)



再現された寄宿室の様子

現・桶川飛行学校平和祈念館

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場は、昭和十年に現在の熊谷市に開校した熊谷陸軍飛行学校の分校として昭和十二年に設置されました。各地から集まった生徒は、ここで寝食をともしながら、陸軍航空兵になるための飛行機の操縦教育を受け、その後戦地へ向かいました。昭和二十年二月には本校の閉校に伴い、桶川分教場も閉校となり、以後、特別攻撃隊の訓練施設として使用されました。

戦後、桶川分教場の建物は、引揚げ者のための市営住宅として使用されました。平成二十八年には、残存していた守衛棟、車庫棟、兵舎棟、便所棟、弾薬庫の五棟が市の文化財に指定され、平成三十年から令和二年にかけて、これらの建物について復元整備工事を実施しました。現在では桶川飛行学校平和祈念館として、活用されています。建物内には当時の資料等が展示され、見学することができます。

所在地 埼玉県桶川市大字川田谷  
二二三三五番地の一六  
交通 桶川駅より東武バス柏原下車  
管理者 桶川市  
問合せ先 桶川飛行学校平和祈念館  
(〇四八一七七八一八五二二)  
写真提供 桶川飛行学校平和祈念館

陸軍航空

太刀洗陸軍飛行学校甘木生徒隊



特幹の碑 (第1期特別幹部候補生)



朋友の碑 (少年飛行兵第15期)

所在地  
福岡県朝倉市菩提寺  
(甘木公園内)



陸軍航空

# 少飛の塔

(東京陸軍少年飛行兵学校)



## 建立の趣旨(碑文)

陸軍の少年飛行兵制度は昭和九年三月第一期の所沢陸軍飛行学校入校にはじまる。

陸軍航空の拡充要請により昭和十三年村山に東京陸軍航空学校が創設され第六期が入校、さらに大津、大分に陸軍少年飛行兵学校がまた急速養成のため各地に教育陵が設立され終戦時の第二十期生まで四万六千の若鷲が巣立った。

陸軍航空の操縦、通信、整備の中堅として支那事変、ノモンハン事件を経て大東亜戦争に参加、日本の危急存亡に際して北に南にと空の第一線に身を賭して活躍した。そして四百五十余柱の特別攻撃隊員をはじめ四千五百余柱の若鷲が祖国の安泰と繁栄を念じつつ大空に散華した。いまだ十代の紅顔の少年達であった。

昭和三十八年東京陸軍少年飛行兵学校の跡地に慰霊碑を建立し以後毎年現地において生存者相集い慰霊の誠を捧げてきたがこのたび永代にわたる供養を念願しゆかりの人々の加護のもとにこの地に供養塔を建立することになった。遷座にあたり英霊の遺勲を偲び永久の平和を祈るものである。

平成二年十月十日

陸軍少年飛行兵出身者一同

少飛会

## 少飛の塔

所在地 東京都武蔵村山市岸清山禪昌寺境内

建立 平成2年10月10日

管理者 禪昌寺

慰霊祭 11月第2日曜日



東航正門跡碑



陸軍少年飛行兵  
揺籃之地碑

所在地 東京都武蔵村山市大南

建立 平成2年10月10日

管理者 武蔵村山市教育委員会

特攻文芸

短歌・俳句・川柳の部



- 電車内 近頃慣れた マスクなし
- 川柳の 締切迫り 汗倍増

ネコ

- 寒き朝 骨に皮膚張る 兄と妹
- 「おにいちゃん」 雪の大地に 妹素足
- 焼け焦げし 布団くるまり 母の夢
- 母の土葬 野霧ほろほろ 涙雨
- 雑踏に いるはずも無き 君をみて
- 赤とんぼ 空に向かいて 舞い上がれ

松花江

飛び征く君に 添うように

淳子



開

事務局からの報告等

一 住所等の変更について

現在、会報は、メール便にて皆様にお届けしています。メール便は、あて先が少し違っただけでも事務局に返送され、お届けすることが出来ません。

実は、毎号、十数通が「宛先不明」で返送されており、郵便局から再度発送の事務を行っております。

転居又は地番等が変わった場合には新しい住所名を、また、同居されるようになった場合は、「〇〇様方」まで必要となりますので、電話やメール、FAXなど、事務局にご連絡下さいますようお願い致します。

二 年会費及び寄付金の税額控除

当顕彰会は公益財団法人として認定されていますので、年会費も税制上は「寄付金」となります。このため、年会費を確定申告する事により税額控除を受けることが出来ます。

確定申告に必要な「寄付金受領証明書」と「税額控除に係る証明書㊦」が必要な方は遠慮なく事務局へご連絡下さい。

なお、年会費も含めて一万円以上の御寄付をされた方には、ご連絡の有無に係らず十二月月上旬に送付しています。

寄付者御芳名(敬称略)

(令和5年7月1日～9月30日)

(単位千円)

三〇〇	多田野 弘	二四	河村 良人	三	椿 孝則	三	今井 敏
二四	松澤 建	二四	山田 親直	三	杉山 恵子	三	殿谷 章
二〇	遠山三千代	一七	廣川 恭子	二	森 遥香	二	中村光太郎
一三	南方 弘	一〇	澤 知樹	二	圓藤 春喜	二	島田 正登
一〇	粕井 隆	一〇	降矢 達男	二	大瀧 成紀	二	野村 朋美
一〇	紺野 真理	一〇	鈴木 敏博	二	中島 尚史	二	波部 修三
一〇	吉田 三郎	一〇	宮倉 崇	二	石垣貴千代	二	江副保次郎
一〇	馬場しづ子	一〇	小堀桂一郎	二	吳 正男	二	吉田 治正
一〇	目黒泰一郎	七	大原 江伸	二	豊岡 久	二	前田 昭一
七	武谷 孝生	七	神林 千祥	二	河野 正信	二	金子 敬志
七	今泉 幸男	七	服部 武志	二	岩崎 茂	二	阿部 軍喜
七	加藤 拓	七	鮫島美知子	二	織田 邦男	二	石井 敏子
七	宮下 久代	七	武安 俊隆	二	人見 周	二	渡部 晃
七	布施木 昭	七	堂坂 清	二	黒川壯之介	二	西田 邦夫
七(有)	イチカワ北海食品	七	高須と志江	二	中熊 順子	二	西田 邦夫
七	天野 弘子	七	高須と志江	二	長本 幹郎	二	福島 隆夫
七	加藤 千佳	五	清水 典郎	二	松川 徹男	二	江守 聖学
五	白田 智子	五	早瀬 登	二	竹本 佳徳	二	天野 文恵
五	林 佐吉	五	前田 郎	一	古川 淳一	一	毛利紀和子
五	藤井 明	五	小林 一郎	一	山下 博	一	吉田 日光
五	藤田 幸生	五	岩本 哲男	一	安井 松男	一	梅田 光明
五	宇都宮秀全	五	佐藤 一志	一	石本登志夫	一	青木 義博
五	棟久 律子	四	齊田 孝	一	新入会員名簿(敬称略)		
四	佐藤 義信	四	田辺さだ子	一	(令和5年7月1日～9月30日)		
四	秋元 光広	三	横山 モナ	一	山形 池田 峰一		

茨城 池田 縁  
千葉 岩村 公史  
東京 田村 正徳

神奈川 木下 親直  
長野 中村 充孝  
河村 良人  
菅原 桃子  
山田 親直  
玉置 俊之  
河村 良人

**会員誌報 (敬称略)**

北海道 川岸 義規

宮城 阿部 敏行 (5・8・8・9)

千葉 東 裕一 (5・8・19)

東京 巖 隆吉 (5・5・31)

大阪 白鳥 正人 (4・7・20)

福岡 山崎 行雄 (5)

**会員ご入会のご案内**

「特攻隊戦没者に感謝と敬意を」  
当顕彰会は、先の大戦の末期、一つしかない命を、祖国の安泰と家族や大切な人のために捧げられた特攻隊員に対し「あなた達のことは忘れません。有難うございます。感謝します。私たちも努力します。どうぞ安らかに！」を胸に、慰霊・顕彰を行う団体です。これにご賛同して頂ける方ならどなたでも会員にお迎えいたします。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

- 当顕彰会の主な事業
- ・特攻隊戦没者の慰霊顕彰（他団体への参加を含む）
- ・会報の発行等による特攻及び戦没者の伝承等
- ・特攻に関する資料の収集、調査、図書等の貸出講演会等の開催その他
- 年会費
- ・一般会員 3000円
- ・学生会員 1000円
- URL: <https://tokkotai.or.jp>
- QRコード



**ご投稿についてのご案内**

ご投稿に際しては、次の点にご留意くださるようお願い致します。

- 1 原稿は、手書き、ワープロ、パソコン作成のいずれでも結構です。可能ならば、ワードファイル、又はテキストファイルで頂ければ幸いです。PDFファイルは編集の都合上、お受けできません。
- 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当顕彰会にお任せ願います。
- 3 投稿記事に関する写真がありましたら、なるべく添付して下さい。
- 4 原稿、写真等は、原則としてお返し致しません。が必要な場合はその旨お書き添下さい。
- 5 会員以外の方の投稿も歓迎致します。
- 6、投稿記事等の送付先は、左記宛てとして下さい。

〒102-0072  
東京都千代田区飯田橋一丁目5-7  
東専堂ビル2階  
公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
電話 03-5213-4594  
FAX 03-5213-4596  
E-mail [jimukyoku@tokkotai.or.jp](mailto:jimukyoku@tokkotai.or.jp)